

42792

教科書文庫

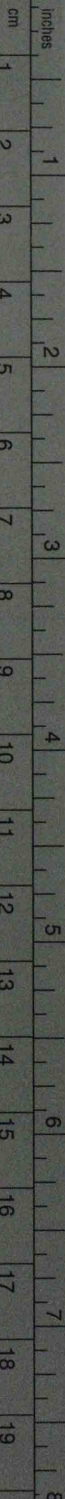
4
290
41-1908
20000 85558

Kodak Gray Scale



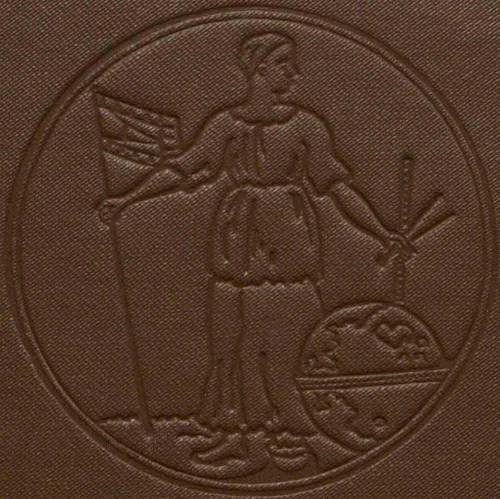
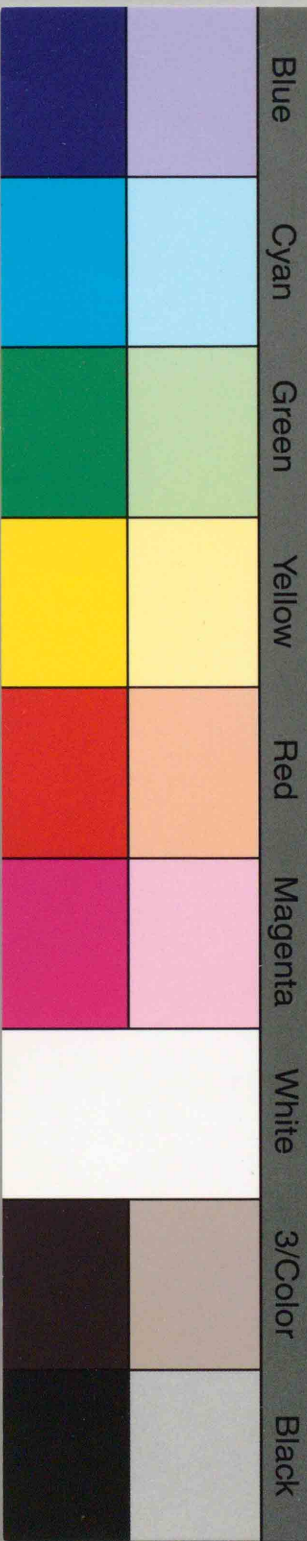
© Kodak, 2007 TM: Kodak

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



Kodak Color Control Patches

© Kodak, 2007 TM: Kodak



教科
41-
2000



資料室

46.12.10
資料室

教科書文庫
4
290
41-1908
2000085558

4A
291
明41



日二十二月二年一十四治明
濟定檢省部文

正 訂
地 理 教 科 書

本 日

授教助學大科農學大國帝京東

士 學 理

著 郎 五 鐵 水 脇

版改月二年一十四治明

京 東

社 會 式 株 籍 書 堂 港 金

広島大学図書

2000085558



本書の内容

一、本書は現行中學校學科課程に準據して編纂し分ちて左の五冊とす

日本地理(中學第一學年用) 一冊外に附圖一冊

外國地理(同第二、三、四學年用) 三冊外に附圖一冊

地文(同第五學年用) 一冊

一、各冊教材の配當は授業時間と學力の程度を參酌して各過不足なからしめんことを勉めたり今頁數と挿圖數とを以て各冊の分量を示せば左の如し

	頁數	挿圖數
第一學年(授業時間 每週二時) 日本地理	一四九	六一
第二學年(授業時間 每週一時) 外國の一	一〇三	六二



第三學年(同上) 外國の二 一一二 六六
 第四學年(同上) 外國の三 一二六 八二
 第五學年(同上) 地文 一五〇 一二四

一、書中地名人名の發音は概ね文部省調査委員の調査報告に依り參考の爲め其の左側に記入せる歐文も亦然り

一、日本地理中都邑名の左側に記したる數字は人口を示し單位を千とす但し人口一萬に充たざるものは特に必要と認むるもの、外之を記さず又山名の左側に記せる數字は其の海面上の高さ單位尺川名の左側に記せるは其の長さ單位里を示す是等は主として比較に便せんが爲に記入したるものなれば比較の必要なしと認めたるは省きたるもあり外國地理に於ては此等は欄外に一括して掲げ以て比較に便せり

正訂地理教科書 日本目次

第一章 緒論	一頁
第二章 帝國の位置區劃等	八
第三章 地方誌	一一
第一節 關東地方	一一
東京府	一一
神奈川縣	一一
埼玉縣	一一
千葉縣	一一
茨城縣	一一
栃木縣	一一
群馬縣	一一
第二節 奥羽	二七
福島縣	二七
宮城縣	二七
岩手縣	二七
青森縣	二七
秋田縣	二七
山形縣	二七
第三節 本州中部	三七
新潟縣	三七
長野縣	三七
山梨縣	三七
静岡縣	三七
愛知縣	三七
岐阜縣	三七
富山縣	三七
石川縣	三七
福井縣	三七
第四節 近畿地方	五五
滋賀縣	五五
京都府	五五
大阪府	五五
奈良縣	五五
三重縣	五五
和歌山縣	五五
兵庫縣	五五

第五節 中國地方

岡山縣 廣島縣 山口縣 島根縣 鳥取縣

七〇

第六節 四國

德島縣 高知縣 愛媛縣 香川縣

八〇

第七節 九州地方

大分縣 福岡縣 佐賀縣 長崎縣 熊本縣 宮崎縣 鹿兒島縣
沖繩縣

八六

第八節 臺灣

一〇三

第九節 北海道

一一三

第十節 樺太南部

一一八

第四章 通論

一二一

第一節 地形

一二一

第二節 氣候

一二六

第三節 天產物

一三〇

第四節 住民

一三二

第五節 政治

一三六

第六節 生業

一四一

第七節 交通

一四六

目次畢

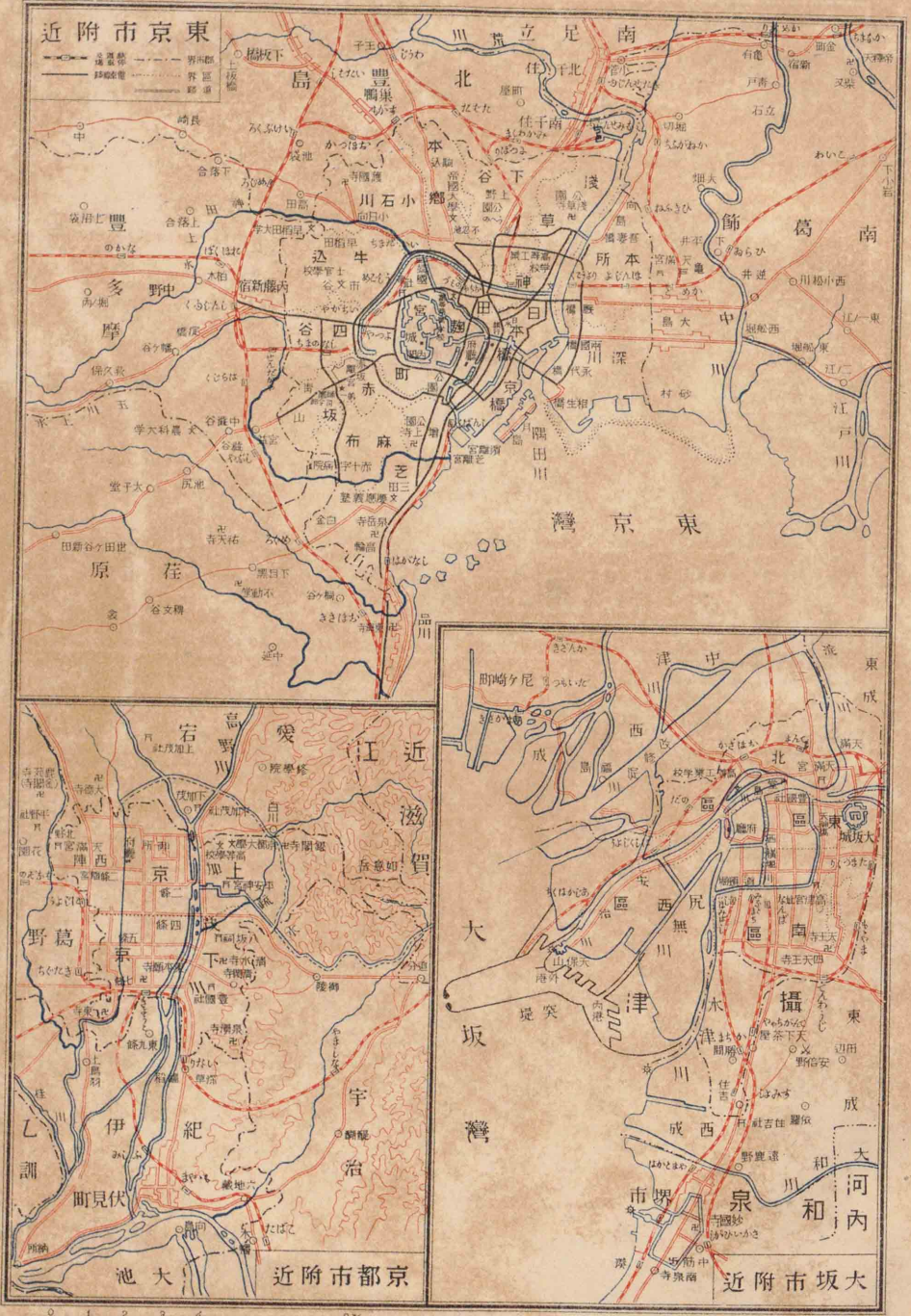
正訂地理教科書日本挿圖目次

○第一章 緒論	二	頁	
經緯度線の圖	三		
五帶の圖	六		
物體の投影	七		
波狀線と毛茨の比較	九		
○第二章 帝國の位置區劃等			
五大島及び樺太南部の面積比較			
○第三章 地方誌			
○第一節 關東地方			
二重橋	一四		
小笠原島の民舎	一七		
横濱鎌倉横須賀附近地圖	一八		
鎌倉鶴岡八幡宮	一九		
犬吠岬	二二		
常磐公園	二三		
日光廟	二五		
妙義山	二六		
○第二節 奥羽			
松島	三一		
松島灣地圖	三二		
雪中の青森市	三四		
男鹿半島海岸の風景	三六		
○第三節 本州中部			
越後石油井	四一		
善光寺	四三		
猿橋	四五		

田子浦より富士山を望む	四六	岡山後樂園	七三
名古屋城	四九	廣島吳附近地圖	七五
長良川の鶺鴒	五一	嚴島神社	七六
兼六公園	五三	下關門司小倉附近地圖	七七
藤島神社	五四	○第六節 四國	
○第四節 近畿地方		金刀比羅宮	八五
琵琶湖風景	五九	○第七節 九州地方	
賀茂川より東山を望む	六〇	耶馬溪の一部	八九
舞鶴軍港附近地圖	六一	大宰府天滿宮及び近傍 <small>附、博多灣附近地圖</small>	九一
大坂城	六二	三池炭山	九二
畝傍山と神武天皇御陵	六四	長崎港	九四
内宮	六六	佐世保軍港附近地圖	九五
舞子濱	六八	阿蘇火山噴火口	九七
玄武洞	七〇	青島の熱帶植物林	九九
○第五節 中國地方		鹿兒島より櫻島を望む	一〇一

○第八節 臺灣		日本雨量配布圖	一二八
生蕃の酋長	一〇五	○第四節 住民	
生蕃の婦人	一〇六	日本人口密度圖	一三二
臺灣土人の家屋及び橋	一〇七	○第五節 政治	
臺灣の寺院	一〇八	衆議院	一三六
紅毛城址	一一〇	○第六節 生業	
媽宮	一一二	鹽田	一四四
○第九節 北海道		○第七節 交通	
アイヌ人	一一三	東京市中の電車	一四七
アイヌの家屋	一一四		
函館附近地圖	一一七		
○第十節 樺太南部			
樺太の落葉松林	一二九		
○第四章 通論			
○第二節 氣候			

挿圖目次畢



高距離ハ每百メ一ト九ナリ

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 尺 1:200000 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 尺 日本

正訂 地理教科書 日本

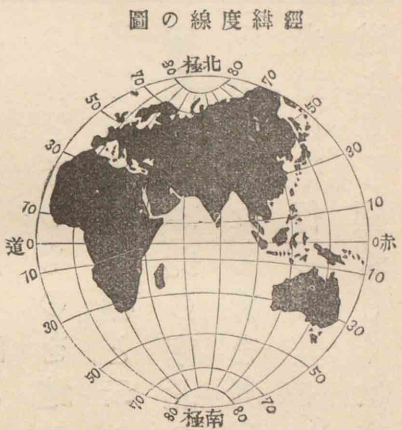
理學士 脇水鐵五郎著

第一章 緒論 (附圖第一版)

地球 我が地球は、其の名の如く、殆んど球形にして、獨樂のめぐる如く、日々西より東に一回轉をなすものなり。其回轉の軸となるものを地軸と云ふ。

地軸の兩端を極と云ふ。北に在るを北極と云ひ、南に在るを南極と云ふ。此の南北の兩極より同距離なる地球表面の諸點を連ねたる線を赤道と云ふ。

赤道に平行して畫きたる圓線を緯度線と云ふ。緯度線は、赤道より、北極若しくは南極に向つて數へ、赤道の北に在る部分を北緯何度何分と云ひ、南に在る部分を南緯何度何分と



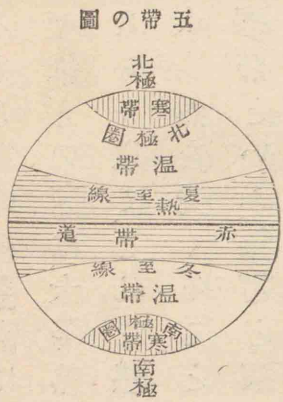
云ふ、各九十度あり。又、赤道及び緯度線と直角に交りて、兩極を連ねたる縦の線を經度線(子午線といふ)と云ふ。從來經度線の數へ方は、各國銘々に其の起點を定めたりしが、明治十八年萬國會議の時、英國のグリニチ天文臺を通ずる子午線を以て、本初子午線と定めたり。されば此の天文臺より西に數へて百八十度に至るまでを西經と云ひ、東に數へて百八十度に至るまでを東經と云ふ。此の經緯度線は、只地球表面の各地の位置を定めんが爲めに設けたる假りの線にして、實際地球の表面に此等の線あるにあらざるなり。

經緯度線によりて我が帝國の位置を示せば左の如し

南端 北緯二十一度四十八分(臺灣南岬) 北端 北緯五十度五十六分(千島アライト島) 西端 東經百十九度二十分(澎湖島花嶼) 東端 東經百五十六度三十二分(千島占守島)

地球の大小 赤道周圍の長さは、凡そ一萬二百里、赤道の直徑は凡そ三千二百四十八里にして、地球の面積は凡そ三千三百萬方里なりといふ。而して緯度線上一度の長さは、赤道を距る遠近によりて、これを異にすれども、經度線上一度の長さは、略一定にして凡そ二十八里八町あり。

五帶 地球の表面に畫きたる赤道の南北各二十三度半の緯度線中、北にあるものを**夏至線**(北回線)、南にあるものを**冬至線**(南回線)と稱し、南北兩極より各二十三度半の緯線中、北にあ



るものを北極圏南にあるものを南極圏と稱す。夏至線と冬至線との間は、太陽熱を受くること最も多く、從て氣候炎熱なるを以て、これを熱帯といひ、兩極より兩極圏に至る間は太陽熱を受くること最も少く、氣候寒冷なるを以て、これを寒帯といふ。熱帯と寒帯との間は、溫帯と稱し、太陽熱を受くること其の中を得て、氣候溫和なり。されば地球上には寒、溫、熱の三帶ありて、其の寒、溫二帶は南北に各一帯あるが故に、總べて之を五帶と稱す。然れども實際の寒熱は、種々の事柄に由りて、各地一定せざるものとす。

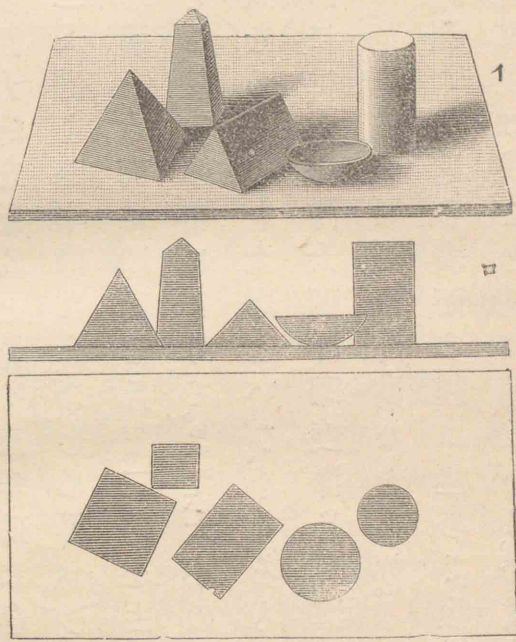
陸面 地球の表面は、陸と水とより成りて、陸の面積は、水面の凡そ三分の一に當れり。陸の大なるものを大陸といひ、ユーラシア、アフリカ、オーストラリア、南北アメリカの五大陸あり。陸の小なるものを島といひ、孤島、列島、群島等あり。此等

ユラシア大陸はアジア、ヨーロッパの二大陸に分つこともあり。

の總ての陸を大別して、アジア、ヨーロッパ、アフリカ、オセアニア、南北アメリカの六大洲となすを常とす。普通の法に隨ひて、西經二十度東經百六十度の子午線を以て、地球を東西の兩半球に分つときは、アジア、ヨーロッパ、アフリカ、オセアニアの四大洲を殆んど全く東半球に含ましめ、南北アメリカの二大洲を西半球に含ましめ得べし。

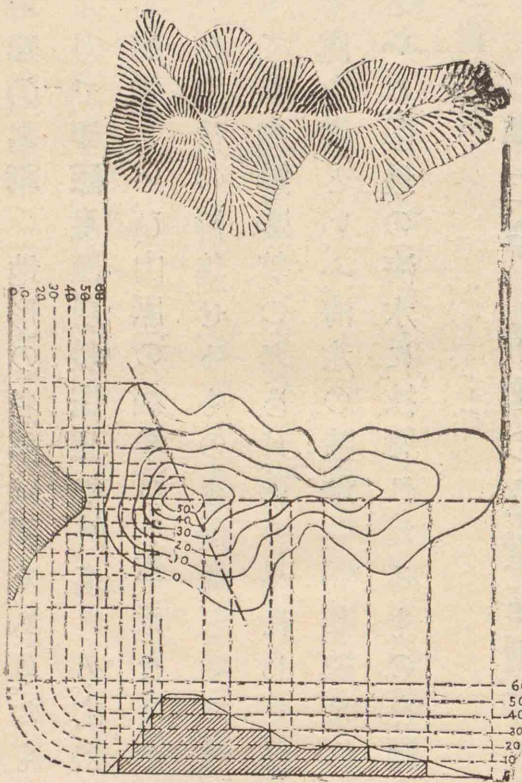
水面 水面は陸面の凡そ三倍を占め、其の水は互に相連れども、陸の分布によりて、また、大小の部分に分たる。其の特に大なるものを大洋といひ、小なるものを海、灣などといふ。大洋には、太平洋、大西洋、印度洋あり、海には、日本海、支那海、灣には、東京灣、大阪灣、渤海灣などあり。

地圖 陸地の表面の貌は極めて複雑なるものなれば之を圖に現はすこと甚だ困難なり。今數個の物體を、机上に置き、



側面の少し高き所より、見るときは、(イ)圖の如くなるべく、正面より之を見るときは、(ロ)圖の如くなるべく、又上より之を見下すと、(ハ)圖の如くなるべし。以上三圖の中、(イ)の二圖は、物體間の距離を明に示すこと能はざれども、(ハ)圖は、稍明に之を示すことを得べし。地圖は、地球表面の有様を(ハ)圖の法によりて現はし、其の距離大さ等を正しき割合にて縮めたるものなり。然れども、これのみにては、土地の高低を知り難し。土地の

下の圖は、波狀
線にて土地の
高低を現はし
得る原理を示
し、上の圖は、
同一の地形を
毛茨にて現す
たるを示す。



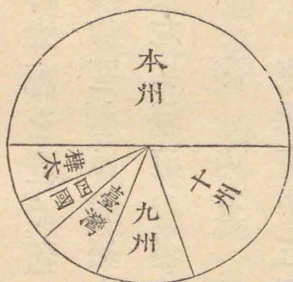
高低を現はすには、線を以てする法と、毛茨を以てする法とあり。線を以てするものは、例へば左圖の如く海面より十米を増す毎に、平面を假定し、此等の平面と地面との切り合ふ線にて、地形を現はすにあり。此線を波狀線と名づく。斯くすれば、波狀線の數によりて、其の高さを知り、且、波狀線の密に相接する所は、傾斜急にして、疎なる所は、傾斜の緩なるを知り得るなり。

り。又毛茨を以てするものは、其の毛茨の短く濃きは傾斜の險しきを示し、長くして薄きは緩やかなるを示すなり。地形の名稱 地形の名稱は種々あり。おもに凸凹の状態によりて、平原、高原、丘陵、山岳等の名あり。山岳の繼續せるものを山脈といひ、山脈の相集りて、一系をなせるものを山系といひ、山岳の群集せるものを山嶺といふ。又出入の状態によりて、半島、岬、灣等の名あり。灣の小にして船舶の碇泊に適する處を港といふ。海水の陸地の間に挟まれたるものを海峡といひ、陸地の海水に挟まれたるものを地峽といふ。

第二章 帝國の位置區劃等(附圖第二版)

位置 我が國は、アシア大陸の東方海中に在る島國にして、東及び南は太平洋に面し、西及び北はオホーツク海、日本海

本州	14,492	方里
九州	5,057	・
四國	2,312	・
樺太	2,253	・
臺灣	1,850	・
南島	1,151	・



東支那海等を隔てて、シベリア、朝鮮、支那に對し、北東端はシベリアのカムチャツカ半島に近く、南西端はフィリピン群島に向ふ。近時領有の樺太南部は、日本海とオホーツク海との間に横はれり。

領土 我が帝國の領土は大小數多の島嶼より成り、其の大きなものは本州、十州、九州、四國、臺灣の五島及び樺太南部にして、其の他、千島列島、琉球列島、薩南諸島、豆南諸島、小笠原列島等あり。其の排列の大勢は北東より斜に南西に延長し、五大島の幅廣き處も五十里を超えざれども、全領土の長さ一千二百餘里に及び、面積凡そ二萬九千方里を有す。區劃 我が國には行政上の區劃と舊來の區劃とあり、行政

上の區劃は、本州四國九州等を分ちて、三府四十三縣とし、其の下に郡市町村等あり。北海道は道廳を置き三區十六支廳に分ち、臺灣は總督府を置き二十廳に分つ。又樺太南部には樺太廳を置く。舊來の區劃には、一畿八道八十五國の別あり。此の區劃は歴史上若しくは習慣上、今尙使用せらるるが故に、左に畿道の名及び之に屬する國名を示すべし。

- 畿 内五 國 山城大和河内和泉攝津
- 東海道十五國 伊賀伊勢志摩尾張三河遠江駿河甲斐伊豆相模武藏安房上總下總常陸
- 東山道十三國 近江美濃飛騨信濃上野下野磐城岩代陸前陸中陸奥羽前羽後
- 北陸道七 國 若狹越前加賀能登越中越後佐渡
- 山陰道八 國 丹波丹後但馬因幡伯耆出雲石見隱岐
- 山陽道八 國 播磨美作備前備中備後安藝周防長門
- 南海道六 國 紀伊淡路阿波讃岐伊豫土佐

- 西海道十二國 筑前筑後豐前豐後肥前肥後壹岐對馬日向大隅薩摩琉球
- 北海道十一國 渡島後志石狩天鹽北見膽振日高十勝釧路根室千島

第三章 地方誌

第一節 關東地方 (附圖第六版)

地形。關東地方は、本州の南東部を占めて太平洋に面し、西北二境には、高き山地を繞らせども、東南二方の太平洋岸には、房總半島と三浦半島との丘陵地あるに過ぎずして、其の間に廣さ三四十里にも及べる我が國第一の平野を開けり、之を關東平野とす。土地西北より南東に傾くを以て、利根川を始めとし、那珂川、荒川、多摩川、馬入川等北西の山地に發する諸川は、關東平野を流れ、水運灌漑の便を與ふ。海岸の出入

は房總三浦の二半島と之に擁せられたる東京灣とを著しとす。山地の外、氣候概ね溫和にして、海岸には特に人身に適する所あり。水陸共に生産の利に富み、自ら帝國の最も重要な地方を成す。

區劃 關東地方は、東海道の東半と東山道の一部とを含み、謂ゆる關東八州の地なり。行政上之を分ちて、左の一府六縣となす。

府縣名	管轄區域	府縣廳所在地	同上人口
東京府	武藏一部、豆南諸島、小笠原列島	東京市	二、五三二、〇〇〇
神奈川縣	武藏一部、相模全部	横浜市	三二五、〇〇〇
埼玉縣	武藏一部	浦和町	七、〇〇〇
千葉縣	安房、上總全部、下總一部	千葉町	二八、〇〇〇
茨城縣	常陸全部、下總一部	水戸市	三六、〇〇〇

關東山地とは、關東平野の西、凡そ水峠と小佛峠の間を隔つて、まはれる山地を云ふ。

東京市は左の十五區に分れる。魏町・神田・日本橋・京橋・芝・麻布・赤坂・四谷・牛込・小石川・本郷・下谷・浅草・本所・深川。

栃木縣	下野全部	宇都宮市	三五、〇〇〇
群馬縣	上野全部	前橋市	四〇、〇〇〇

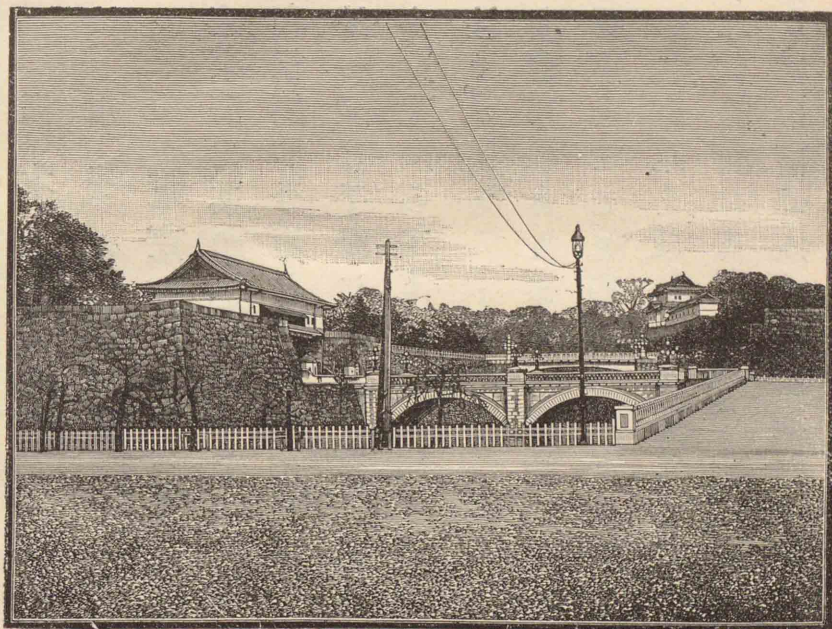
東京府(附圖第六版)

東京府は、其の區域東西に長くして、西は關東山地より東は利根川の分流たる江戸川に至り、南東は東京灣に臨めり。土地一般に平野にして、多摩川殆んど其の中部を東西に貫流す。又荒川の下流は隅田川と云ひ、東京市を過ぎて東京灣に注ぐ。

東京市はもと東京灣頭の一寒村たりしが、三百年前、徳川氏幕府をここに開きてより大に繁盛に赴き、王政維新の後、詔して東京と改め、次で都をここに移し給ひしかば、繁榮昔日に倍し、實に帝國第一の大都會なり。

宮城は舊徳川氏の居城たる江戸城を修築せられたるもの

十五區中麴町・麻布・赤坂・四谷・牛込・石川・本郷の七區は概ね高燥なる臺地に屬して之を山の手に通稱し紳士の邸宅を構ふるもの多し他八區は低濕の地に往來の便なくれば商家多くここに集まる稱す之を下町と通



二
にして、繞らすに二重の濠を以てせり。宮城附近には諸官省國會議事堂外國大使館及び公使館近衛師團等の重要官衙あり。東京帝國大學を始として、官私の諸學校諸製造橋所諸會社等所々に散在せり、又市内には舊蹟及び遊覽の地甚だ多し、芝公園には増上寺及び徳川氏先代の

淺草海苔は東京灣内の大森邊にて採取するものなり

廟所あり、日比谷公園は近來開設せられたるものにして公園の模範とすべく、上野公園は市の北部なる高臺に在りて、博物館動物園圖書館東照宮等あり。淺草公園は上野の東方に在りて、有名なる淺草寺あり。向島は隅田川の左岸に在り、櫻花を以て名あり。其の他靖國神社日枝神社神田神社泉岳寺等著名の社寺舊跡少からず。

本市は銅器蒔繪細工等の美術品を産するの外、綿絲マツチ雜貨諸器械等を出し、書籍新聞等の發行も極めて多し、又古來よりの名産としては、錦繪及び淺草海苔あり。

市内には溝渠の普く通ずるあり、電車の往來するあり、市外との交通には東海道線總武線中央東線日本線の官營鐵道、京濱電氣鐵道等のあるあり、加ふるに隅田川及び東京灣内には船舶常に航行するあり。北日本の貨物多くここに集散

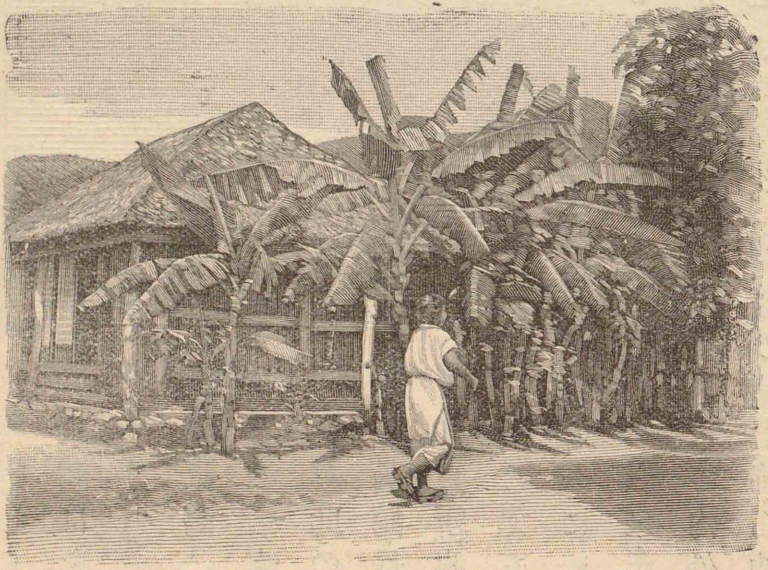
豆南諸島の中
大島利島新島
神津島三宅島
御倉島八丈島
を伊豆七島と
云ふ

し、商工業盛にして、富豪の多きこと全國に冠たり。
東京市に接續し、品川王子千住等あり。中につき王子は櫻花
に名高き飛鳥山を負ひ、洋紙(紙)の製出盛なり。多摩川上流の養
蠶地に八王子あり、多く絹織物を産す。其の北方より多摩川
の水を引きて、東京市民の用水に供す、これ謂はゆる玉川上
水にして、途中の小金井は、櫻花の名所なり。
伊豆の南東より遠く海中に羅列する島々は、豆南諸島、小笠
原列島、硫黄列島にして、皆火山島なり。豆南諸島中の大島に
は活火山三原山あり。八丈島よりは八丈絹を産す。其他諸島
には椿油、黄楊の特産あり。
小笠原列島は豊臣氏の時、小笠原貞頼の發見せし處なるに
より、此の名あり。父島母島等の總稱にして、豆南諸島の南に
在り、熱帯に近きを以て熱帯植物及び大蝙蝠等を産す。父島

の二見港は南方諸島唯
一の良港なり。又、南洋の
一孤島たる南鳥島は數
年前我が版圖に編入せ
られたり。

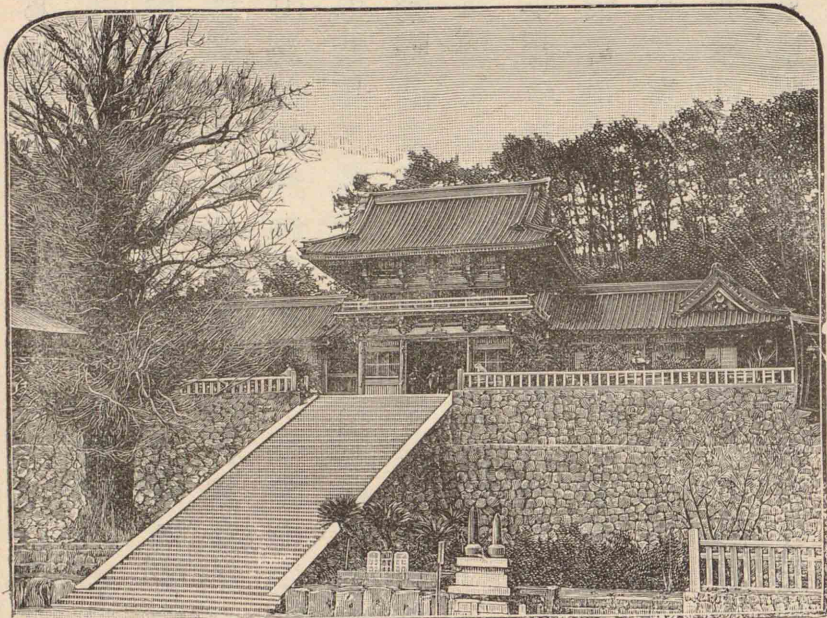
神奈川県(附圖第六版)

本縣西部は山地にして、
大山、足柄峠、箱根山等あり。
馬入、酒匂の二川域内
を流れて共に相模灣に
注ぎ、三浦半島海中に突
出して、其の東端に觀音
崎あり、上總の富津岬と



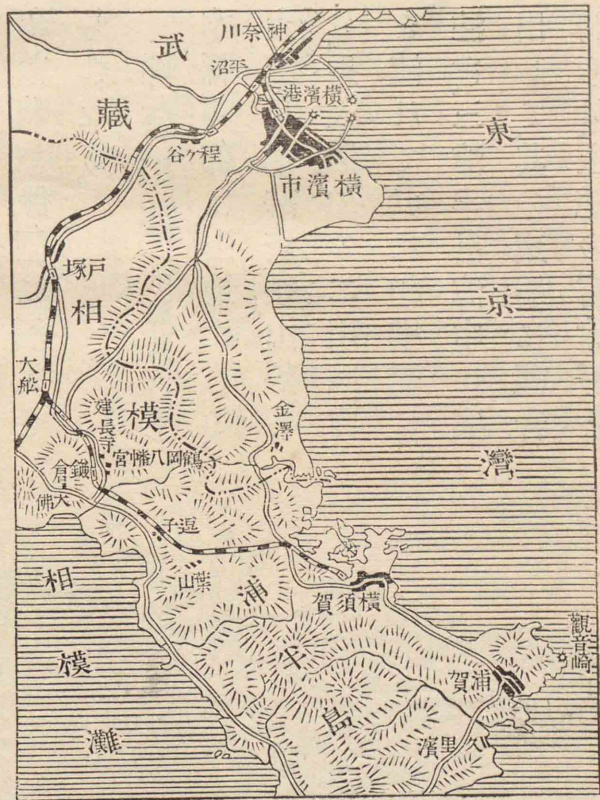
小笠原島の民舎

四軍港とは横須賀・呉・佐世保・舞鶴を云ふ



糖羊毛等の輸入甚だ盛なり。
横須賀市は三浦半島の東岸に在り、我が國四軍港の一にして鎮守府、海軍工廠、海軍機鶴倉、岡關學校等あり。觀音崎の南西に**浦賀**あり、米船の渡來を以て歴史上有名の地なり。其の近傍久里濱には米人の上陸紀念碑建設せられたり。相模灣に臨

初め寂しき一漁村たりしが、安政六年に開港せし以來年々逐うて繁榮に赴き、今は我が國第一の開港場として、内外の船舶常に港内に輻湊し、生絲、絹織物、茶、銅等の輸出、綿、石油、砂



横濱、鎌倉、横須賀、浦賀、相模灣、東京灣に臨み、此の地は函館、長崎、神戸、新潟と共に元五港の一にして

める。鎌倉は源頼朝以來久しく幕府のありし所に於て、鶴岡八幡宮、建長寺、大佛等名所舊蹟甚だ多し。鎌倉の外、相模灣の邊には江島、大磯、小田原等あり。江島は景色よきために、大磯は海水浴のために著はれ、小田原は箱根山及び熱海に到る要路に當れり。箱根山中には宮下、底倉等の温泉あり。又、山上の蘆湖は風景甚だ佳なり。大山の南なる寮野地方は、煙草の産を以て知らる。

熱海は静岡縣伊豆の著名なる温泉場。

埼玉縣 (附圖第六版)

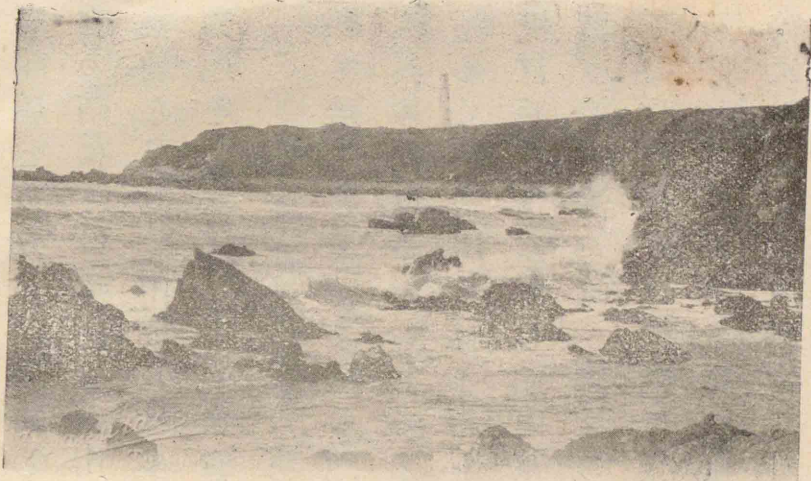
本縣の西部には、謂はゆる秩父の山地蟠まれども、東部は一帯に平野にして、荒川及び古利根川其の間を灌漑し、農産物甚だ多く、特に麥の産額極めて著し。又、到る所機織盛なり。浦和はもと一小邑たりしが縣廳の置かれしより名高くなりし所とす。其の北に大宮あり、此地は舊日本鐵道の奥州線

と高崎線との分るゝ處にして、又其の公園に氷川神社あり。大宮の西に當れる川越は川越平の産に名高く縣下第一の商業地なり。其の附近には多く甘藷、茶を産す。熊谷は北部の商業地なり。秩父山中の大宮は秩父絹の産地として知らる。

千葉縣 (附圖第六版)

本縣は殆んど房總半島の地にして、南部には丘陵起伏すれども、其の他は平野にして、米の産に富み、印旛沼、手賀沼等の沼澤あり。利根川は縣の北境を東流して太平洋に注ぎ、其の分流江戸川は南流して東京灣に注ぐ。

千葉は東京灣に臨み鐵道の分岐點に位し縣下交通の衝に當る。印旛沼に近き佐倉は炭を以て知られ、其の北東、成田は不動堂を以て著はる。佐原は利根川に沿ひ醬油を産す、其の近傍に名高き香取神宮あり。利根川の河口に銚子港あり、銚子



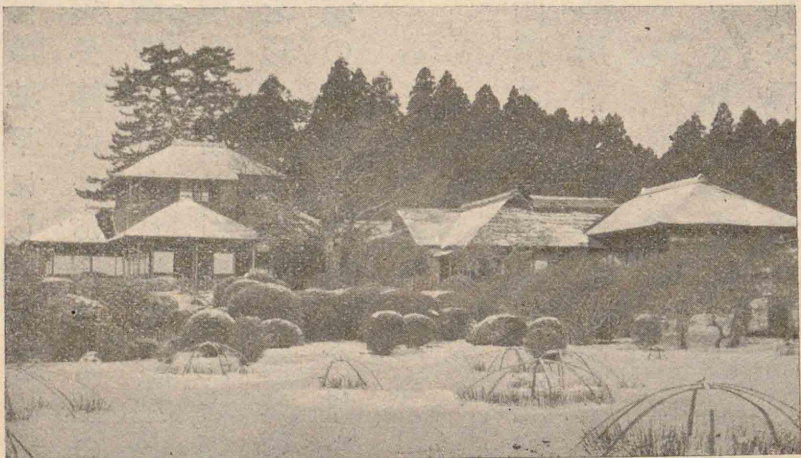
子縮及び醤油の産地に
 て、其の南東の海角を犬吠
 岬と云ふ、之より南方弓形
 の海岸は、謂はゆる**九十九**
 犬里濱にして、鱈漁を以て著
 はれ、鯉の漁利また大なり。
 吠安房の東岸なる**小湊**は誕
 生寺を以て著はる、西岸の
 岬**北條館山**は海水浴に適し、
 その北なる**木更津**と共に
 東京灣東岸の要津なり。江
 戸川の沿岸に**野田**流山あ
 り、**野田**は醤油、流山は味噌

を以て其の名世に知らる。

茨城縣 (附圖第六版)

本縣北部は阿武隈山脈八溝山脈ありて、山地多しと雖も、那珂川の下流地方より利根川に至る間は殆んど平野にして、纔に筑波山地を見るのみ。霞浦及び北浦は平野の間において、其の水利根川に通じ、水運の便大なり。平野の地方よりは、米・麥・大豆等を産し、北部の山地には石炭石材の産あり。

水戸市は那珂川の南岸に在り、



常磐公園

三公園は水戸の常磐金山の兼六園岡山の後樂園なり磯濱の大洗岬は著名なる海水浴場なり

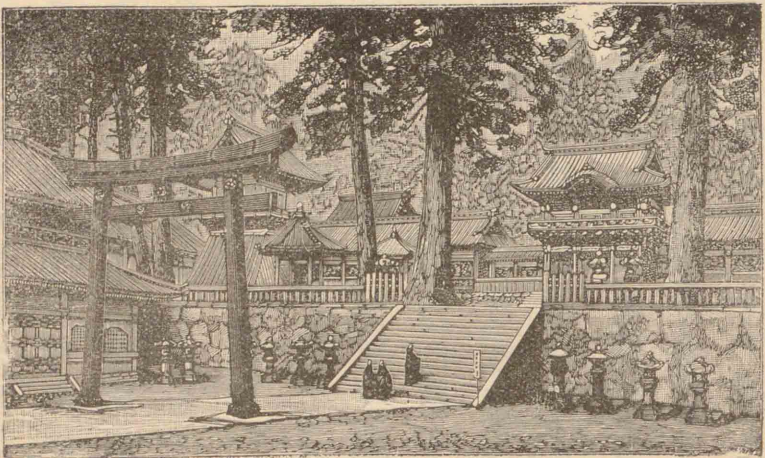
宇都宮市には師團増設の結果明治四十年中第十四師團司令部を置かれたり

元徳川三家の一たる水戸中納言の城下にして、附近の太田と共に煙草の名産あり、其の常磐公園は我が國三公園の一に數へられる。那珂川の口に湊磯濱あり、共に漁業の中心地とす。北浦の東岸にある鹿島(3)に鹿島神宮あり、利根川を隔てて香取神宮と相對し共に古社を以て著る。土浦石岡は霞浦に近く、酒、醬油の醸造盛なり。西境の結城(12)は、木綿及び紬を産す。

栃木縣(附圖第六版)

縣下西北部には山岳重疊して、西境に男體山、白根山、北境に那須山等の火山あり、那珂川、鬼怒川皆源を是等の山中より發して南東の平野を灌溉す。

宇都宮市は南東部の平野に在り、舊日本鐵道奥州線の一支出線たる日光線は此の地より分れ、大麻の産地たる鹿沼(14)を經



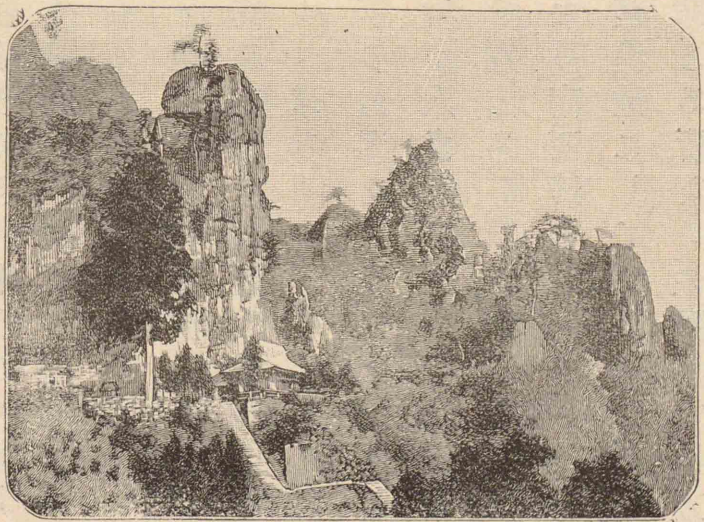
て日光に至る。日光は鬼怒川の支流大谷川に臨み、徳川家康の廟所たる東照宮の所在地にして、社殿の結構壯麗なるを以て、其の名海外に及ぶ。日光山中には中禪寺湖及び華嚴裏見霧降光等の名瀑あり、風光幽靜、避暑遊覽の人多し。日光の南西に足尾(15)の銅山あり、銅の産出全國第一たり。南西境の足利(16)は絹織物の名産地にして、又、足利學校の遺蹟ある所なり。佐野(17)、栃木地方も生絲織物の産多く、小山(18)は鐵道

の交叉點なり。其の北東眞岡は眞岡木綿の本場とす。管内には温泉多く、那須山下の那須七湯と高原山下の鹽原温泉とは其の最も著名なるものなり。

群馬縣(附圖第六版)

碓氷峠はアプト式の鐵軌を布き二十六のトンネルを穿ちて汽車を通す。榛名・赤城・妙義の三山は其の風光の勝れるを以て上毛三山の稱あり。

本縣は南東の一部に平地を存すれども、其の他は悉く山地にして、西境に碓氷峠、淺間山、白根山等あり、中部には赤城山、榛名山等あり。此等の諸山は概ね火山なるを以て、温泉も、また、極めて多く、中につ



妙義山

き伊香保、草津最も著名なり。利根川は源を北部の山地に發して南東境を流る。管内一般に養蠶の業盛にして、生絲の産額、長野縣に次ぎ、全國の第二に位す。前橋市は利根川に沿ひ、生絲及び繭の大市場なり。其の南方の高崎市も生絲の取引多く、又、鐵道の會點に當り、交通甚だ便なり。南西の富岡は製絲場を以て名高し。前橋以東の地には伊勢崎、桐生、館林等の機業地ありて、桐生は羽二重、孺子を以て、伊勢崎は銘仙を以て著はる。高崎の西に磯部鑛泉あり。更に其の西に峙つ妙義山は豊後の耶馬溪と共に奇勝を以て東西並び稱せらる。

第二節 奥羽(附圖第六版及第七版)

地形。奥羽地方は本州の北東部を占むる地域にして、其の

中央を南北に走れる分水山脈あり、これ即ち那須火山脈の通ずる所に於て、數多の火山を戴けり。其の西には、鳥海山(2,133)を主山とする鳥海火山脈あり、東には、高原性の北上山地と、阿武隈山地とありて、各南北に連亘す。されば、河流概ね分水山脈より發すれども、東西の山地のために、或は北上川、阿武隈川(3)の如く、山地に平行して流れ、或は最上川、御物川(3)の如く、甚しく曲流するものあり。到る所山地多く、氣候冬寒永く、農産物は、所々の平野より産する米穀と、阿武隈川地方の養蠶とを以て、最も著しとす。されど、鑛業、林業及び牧畜の盛なるは、他地方に稀に見る所なり。海岸線は津輕海峡に面する北岸及び東岸の中部稍發達せり。一般に産業未だ普及せざるを以て、人烟稀にして、巖手縣の如きは、全國平均人口の二分の一に達せざる程なり。

區劃。奥羽地方は、東山道の東北部を占め、古へ陸奥・出羽の二國たりしを以て此の名あり。行政上之を分ちて六縣となす。

縣名	管轄區域	縣廳所在地	同上人口
福島縣	岩代全部 磐城大部	福島市	二七、〇〇〇
宮城縣	陸前大部 磐城一部	仙臺市	一〇〇、〇〇〇
巖手縣	陸中大部、陸前一部 陸奥一部	盛岡市	三二、〇〇〇
青森縣	陸奥大部	青森市	三五、〇〇〇
秋田縣	羽後大部 陸中一部	秋田市	三二、〇〇〇
山形縣	羽前全部 羽後一部	山形市	三八、〇〇〇

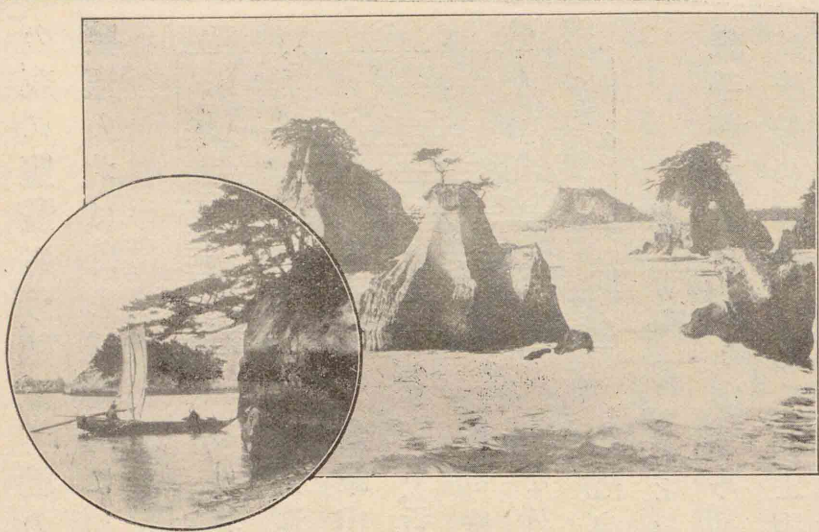
福島縣 (附圖第六版)

本縣は東に阿武隈山地あり、中央に近時の破裂を以て有名なる吾妻山、磐梯山あり、南境に那須山ありて、山岳重疊し、阿

武隈川・阿賀川の二川此等の山間に發し、一は太平洋に一は日本海に入る。而して東部海岸阿武隈川沿岸及び猪苗代湖の西に平地を存す。

福島は舊日本鐵道線と奥羽線との分岐點に當り、生絲・蠶紙の取引盛なり。其の南東の川俣は絹織物を以て聞ゆ。之より南方の阿武隈河谷には二本松郡山・白河等ありて、二本松は紬を産し、白河は戊辰役の古戰場にして又馬の市場なり。東海岸に中村平の二邑ありて、中村よりは相馬焼を出し、平附近よりは石炭を産す。常陸磐城の國境に、昔の勿來の關の遺址あり。分水山脈以西には會津平あり、其の中心若松市は戊辰の役に依りて名高く、蠟燭・陶器・漆器を産す。附近に東山の溫泉場あり。

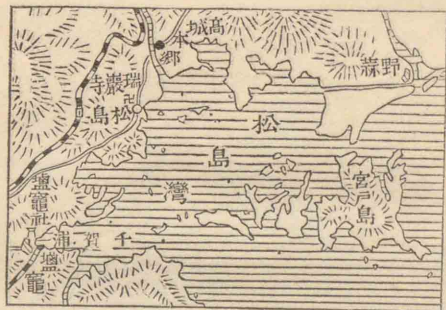
宮城縣(附圖第七版)



宮城縣は西境に分水山脈あり、東は北上山地の餘波ありと雖も、中央部は謂ゆる仙臺平野にして、北上川・阿武隈川松名取川等此の間を灌漑し、農産物甚だ多く米の産出夥し。島牡鹿半島南方に突出して仙臺灣を擁す。

仙臺市はもと伊達氏の城下にして奥羽第一の都會なり、第二師團司令部・第二高等學校・醫學專門學校等あり、仙臺平埋木細工を名産とす。仙臺

松島は丹後の
天の橋立及安
藝の殿島と共
に古來日本の
三景と稱す



巖手縣 (附圖第七版)

巖手縣は西に分水山脈あり、東に北上山地あれども、中央部は狭長の平野にして、北上川其の間を流る。

岩手山は形富
士に似たれば
南部富士の稱
あり
平泉には中尊
寺の古寺あり

岩木山は津輕
富士の別稱あり

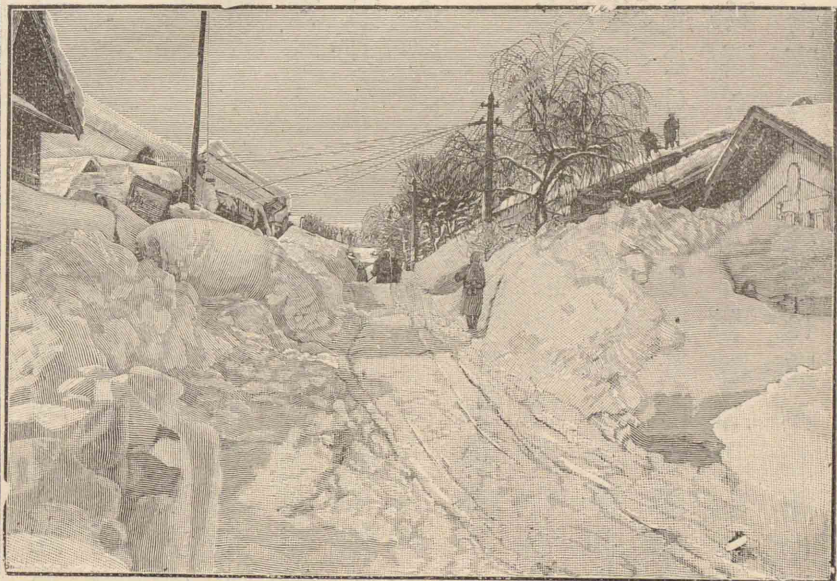
北上川の上流に盛岡市あり。此の地は、元、南部氏の城下にして高等農林學校あり、南部縮緬南部釜及び林檎を産す。其の北西に岩手山あり。盛岡の南方鐵路に沿うて平泉一關あり。附近の衣川と共に歴史上名高き處たり。東部海岸は釜石宮古等あり、漁船多く輻湊す。釜石附近には本邦最大の大橋鐵山あり。縣の北部は一般に牧畜盛にして、謂はゆる南部馬の産地なり。

青森縣 (附圖第七版)

本縣は奥羽の最北端に在りて、南部は山岳重疊し岩木山、八甲田山等あり。下北半島津輕半島北方に突出して陸奥灣を成せり。岩木川沿岸及び東部は平野にして、東岸に近く小河原沼あり、南境に十和田湖あり。

青森市は青森灣に臨み、函館に通ずる要津にして近時開港

弘前は津輕侯
の舊城地



雪中の青森市

場となれり。青森の南
西に弘前市あり、第八
師團司令部所在地に
して、津輕塗、林檎の産
あり。小河原沼に近き
三本木は古來良馬の
産地なり。八戸は馬淵
河谷の市場なり。下北
半島の大湊は陸奥灣
に臨む、近時海軍要港
の一となれり。恐山其
の北西に聳ゆ。
管内は三方、皆海に面

男鹿半島は風
景の奇絶を以
て著はる

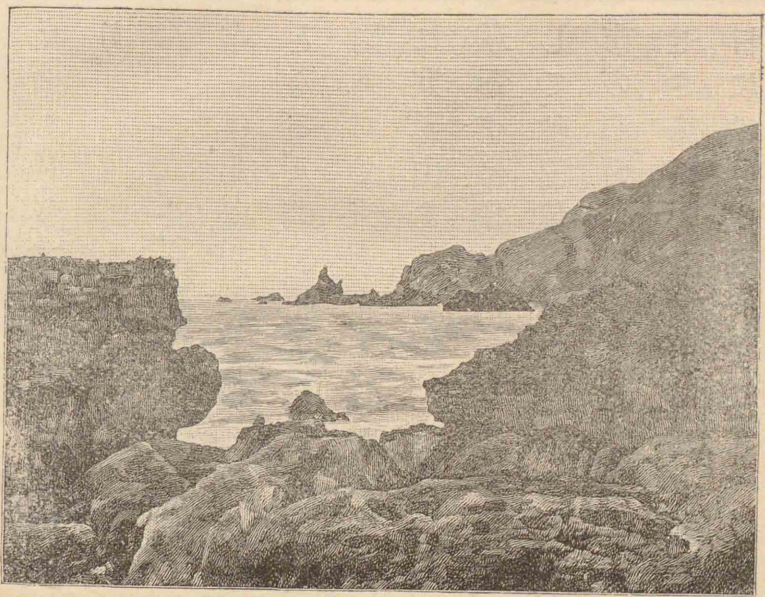
するを以て漁業盛にして、水産物に富む、又津輕半島は良林
に名あり、縣下は冬季は積雪多く、往々交通の絶ゆることあ
り。

秋田縣 (附圖第七版)

本縣は北・東・南の三境は山岳連亘し、其の脈延びて森吉山等
となる。八郎潟附近及び能代川、御物川、子吉川の流域には平
野ありて、米の産出甚だ多し、男鹿半島西海に突出して中央
に寒風山あり。

秋田甯は御物川の下流に在り、此の地は、元、佐竹氏の城下に
して、秋田畝織、秋田蔦の産あり、又、御物河口の土崎港は、秋田
市の門戸なり、されど冬季は風浪荒くして、船舶の寄港に適
せざるが故に男鹿半島の船川港之に代るを常とす。能代河
口には能代港ありて能代塗を産す。

小坂鑛山は一時銅山として著名なりしが近年は銀銅共に産額著しく増加せり



男鹿半島海岸の風景

本縣は著名の鑛山に富み、南境に近く院内銀山あり、能代川の支流に小坂鑛山尾去澤銅山阿仁銅山あり、本縣は銅及び銀の産出を以て實に本邦諸縣に冠たり。又北境の山地には本邦屈指の山林あり、杉の良材を産す。

山形縣 (附圖第七版)

本縣南に飯豊山朝日嶽あり、北に鳥海山あり、中央には月山等ありて、唯最上川

の沿岸に平野を存す。而して其の上流の平野は米澤平野山形平野新庄平野に分れ、下流の平野は即ち庄内平野なり、何れも米産に富む。

山形平野の山形市には薄荷の名産あり。米澤平野の米澤市は、元上杉氏の城下にして、其の附近は養蠶の業盛にして、米澤系織の名特に高し。此の兩地の間にある上山及び赤湯は有名の温泉場なり。新庄は秋田縣に通ずる要路に當り、綾織の名産あり。最上川の河口の酒田港は米穀積出の要津なれども、河口淺く、大船の碇泊に適せず。鶴岡は庄内平野の中央市場たり。此の地方一帶の海岸は砂丘の發達著るし。

第三節 本州中部

(附圖第八版及第九版)

地形 本州中部は、地形上、中央高地と南北の兩部とに分る。

中央高地は本邦最高の飛驒山脈赤石山脈の蹠る所にして、此の二山脈間には木曾山脈横はり、飛驒山脈の西には濃飛高原連れり。更に東部には富士火山脈の走るあり、富士山を始めとし、八ヶ嶽^(2,1932)妙高山等の諸火山を起して、北日本^(2,145)と南日本とを分てり。尙東方の境域を見るに、これまた關東山地越後山脈等の障壁を繞らし、高峻の峰嶺少からず。南北兩部はおもに中央高地の兩斜面を占むる地域にして、一は太平洋に面し、一は日本海に面す。河流は以上の地形に従ひて、中央高地に發し南北に分れて、海に入る、即ち富士川^(2,145)天龍川^(2,145)木曾川等は太平洋に、信濃川^(2,145)神通川^(2,145)庄川^(2,145)九頭龍川等は、日本海に入る。又、其の上流は水勢急にして、舟楫に適せず、下流は概ね沃野を開けり。中につき、越後平野^(2,145)濃尾平野^(2,145)越中平野等は、特に著しきものなり。海岸は、南部の伊豆半島に限られたる駿

河灣、志摩半島と渥美半島とに擁せられたる伊勢海及び三河灣、北部の能登半島に掩はれたる富山灣、若狹灣を著大とし、其の他は、殆んど平直なり。氣候もまた地形の如く略三様に分れ、南部は温和なるを常とし、其の他は寒暑共に稍強し。特に北部の、冬季雨雪の頻盛なると、中部に本邦の最多雨地及び本州の最寒地あるとは、其の特色とする所なり。斯く各部地形氣候を異にすれども、中部は養蠶林産の利極めて夥しく、南北兩部は農産豊かにして、沿海概ね漁利に富めり。

區劃 本州中部は、北陸、東山、東海の三道に屬し、北部は北陸道の地、中部は東山道西部、南部は東海道西部の地なり。從て地理上之を三地方に分つことあり。現今の行政上之を分ちて左の九縣となす。

縣名

管轄區域

縣廳所在地

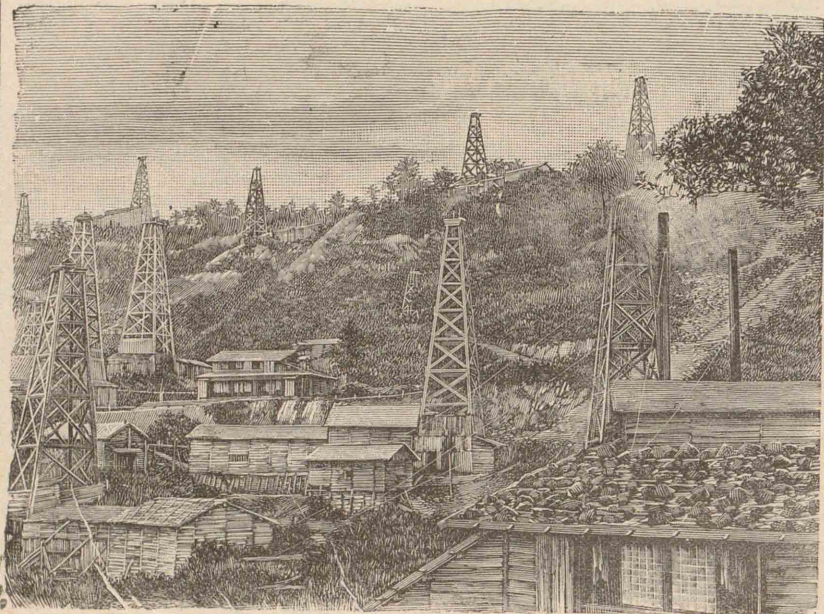
同上人口

新潟縣	越後、佐渡全部	新潟市	五九〇〇〇
長野縣	信濃全部	長野市	三七〇〇〇
山梨縣	甲斐全部	甲府市	四四〇〇〇
静岡縣	駿河、遠江全部 伊豆大部	静岡市	四六〇〇〇
愛知縣	尾張、三河全部	名古屋市	二八五〇〇〇
岐阜縣	美濃、飛驒全部	岐阜市	三九〇〇〇
富山縣	越中全部	富山市	五六〇〇〇
石川縣	加賀、能登全部	金澤市	九八〇〇〇
福井縣	越前、若狹全部	福井市	五〇〇〇〇

新潟縣 (附圖第八版)

本縣は北西の一部のみ海に面し、其の他の縣境は悉く山脈を以て圍まる。信濃川、阿賀川及び荒川流域に廣濶の平野ありて、新潟平野、高田平野の二部となり、米穀の産額甚だ多く、

新潟は元五港の一



越後石油井

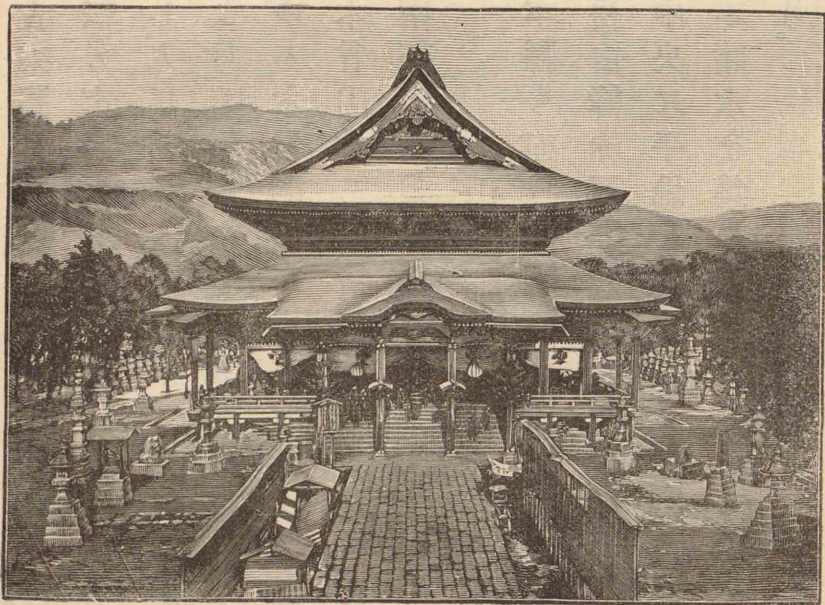
全國中第一位を占む。新潟市は信濃川の河口に在り、開港場なれども、河口淺く且冬季波荒きを以て商業振はず、高田は高田平野の中央に在り、積雪多きを以て知らる。其の北方の直江津は要津なり。信濃川沿岸の長岡市は其近傍に大油田地を控へ市況盛なり。これより上流の十

日市は透綾スキヤ、小千谷は越後縮に依りて名高く、下流の新津ニイヅもまた石油を産し、其の南東五泉は五泉平に名あり、新發田ニハタ村上は北東部の名邑なり。

佐渡は新潟の西凡そ三十海里の海上に在る一孤島にして、東岸に夷港あり、西岸に相川あり。相川は島中の名邑にして、無名異焼メグイを出す。相川の東北に金山ウツあり、古來金の産出多きを以て名あり。

長野縣 (附圖第八版)

長野縣は我が國の大高原にして木曾、赤石等の山脈南部に連亘し、西境の飛驒山脈には御嶽ミタケ、乗鞍嶽等の高山聳え、東境には有名の活火山淺間山峙(9,108)てり。又中央の富士火山脈を通ずる所には和田峠の分水界あり、之より北方の千曲川、犀川の沿岸には佐久平、松本平、善光寺平等の平地を開き、南部の



善光寺

天龍川流域には諏訪平あり。到る所養蠶盛に行はれ、繭生絲の産額全國第一に位す。

長野市は善光寺平に在りて名高き善光寺あり、附近の川中島は武田・上杉の古戦場にて篠井は信越線と中央線との會合點なり。佐久平の上田(9,109)は上田紬の本場とす。上田の西北なる姥捨山オメスツケは

古來觀月を以て名あり。松本平の松本は上田と共に繭蠶卵紙の市場たり。諏訪湖は天龍川の源にして、冬季は湖水凍結し、人馬其上を往來す。湖邊の製絲業は全國第一と稱す。是より鹽尻峠を越え木曾川に沿うて美濃に入る山道は謂はゆる木曾街道にして沿道風景に富む。附近の山に有名なる木曾山林あり、檜花柏等の良材を出す。又天龍河畔の飯田は南部の商業地なり。

山梨縣 (附圖第八版)

歟澤より岩淵
に至る十八里
六時間にして
達す

本縣も亦我が國の高地にして東北に關東山地あり、西に駒岳、白峰、赤石等の連嶺、南に富士山あり。東部に笹子峠ありて中央に平地を存す、之を甲府平とす。富士川は甲府平に落合ふ諸水を集め、南流して駿河灣に入る、舟行早きを以て名あり。

我邦最長の隧
道



さ三哩の隧道あり。其の北に天目山あり、武田氏滅亡の所として知らる。笹子峠より以東を郡内といひ、多く甲斐絹及び

甲府市は甲府平にあり、多く生絲を産す。市の附近に武田信玄の城址あり、是より北に御嶽新道の勝區及び水晶の産

出を以て有名なる金峰山あり。又東北の勝沼地の栽培盛なり、笹子峠には長

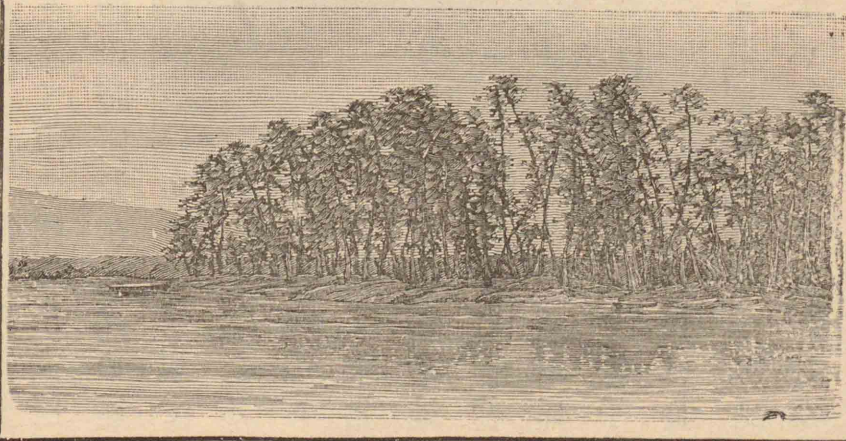
橋方
は葡萄

郡内紬を産す、**谷村**は其の中心なり。郡内を貫流せる桂川に架せる**猿橋**は、奇橋を以て名高し、又富士川の右岸**身延山**には日蓮宗の本山たる**久遠寺**あり。

静岡縣 (附圖第八版)

静岡縣は北境に赤石山脈、富士山東境に箱根山を負ひ、東南部には良林を以て名高き**天城山**あり、南方海に面す。沿海に一帶の平野を存し、**天龍川**、**大井川**、**安倍川**、**富士川**等其の間を流る。伊豆半島は南に突出して、其の南端を**石廊崎**と云

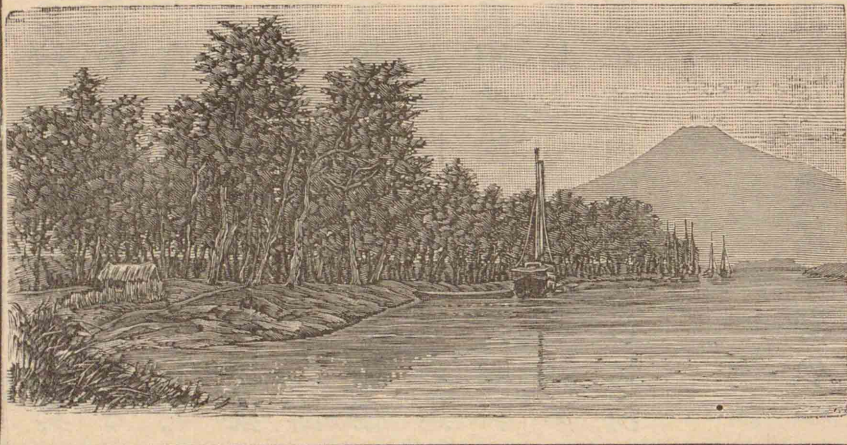
田子浦より



ひ、遠江の御前崎と相對して駿河灣を抱く。

静岡市は安倍川の畔に在り、この地は元徳川家康の退隱せし處にして、附近の**久能山**に其の廟所あり。市には漆器、竹細工の名産あり。**清水港**は市の東に位し、**三保松原**海中に突き出で風色甚だ佳なり。**清水港**と相對して**興津**あり、興津鯛を以て有名なり。是より東、**沼津**に至る海邊は、謂はゆる**田子の浦**にして、**富士山**を眺望する好勝地なり。**富士山**は我が國最高の火山

富士山を望む



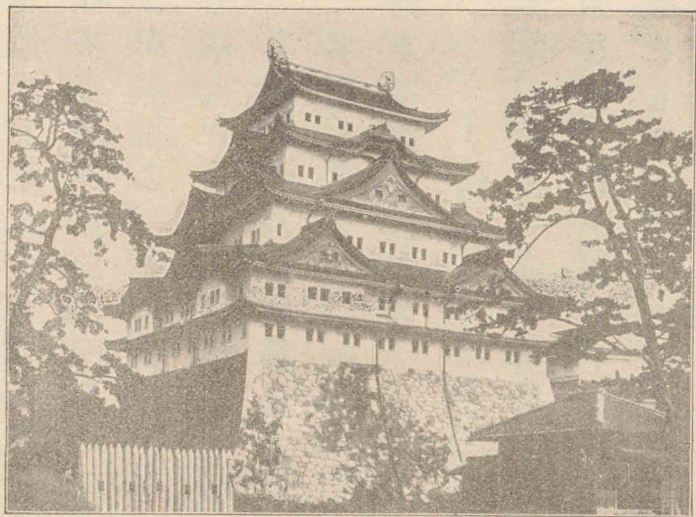
富士登山口に
は御殿場吉田
外須走口等あ
口大宮口等あ
伊豆半島は氣
候温暖なるを
以て東京人士
の好避寒地た
り熱海を以て
其の中心とな
静岡の南なる
焼津は日本武
尊の故事を以
て著はる

にして其の高さ一萬二千尺餘、火山の特相よく備はれり、其の裾野には、駿河半紙の原料たる三桮（ミヅバ）の産多く、又盛大なる洋紙の製造所あり。南東に御殿場あり、富士登山口の一とす。沼津の東に三島あり、三島神社こゝに鎮す。伊豆半島は温泉到るところに湧出し、三島の南方に修善寺温泉、東海岸に間歇泉を以て著名なる熱海温泉あり。下田は伊豆の南端に在る良港にして嘗て開港場たりし處なり。静岡より以西の地は我が國第一の茶産地にして、静岡・島田・濱松等は、製茶取引の中心なり。濱松の北に三方原の古戰場あり、西に濱名湖あり、此の湖は元、海と通ぜざりしが、四百年前地震の爲めに海と通じぬ、其の處を今切と云ふ。

愛知縣 (附圖第九版)

本縣は東北隅は山岳起伏し西部は謂はゆる濃尾平野の一

熱田は近時名
古屋市に合併
せられ元の熱
海港を修築し
て開港場とな
名古屋港と稱
れり



名古屋城

部にして米・麥・蔬菜等の農産物に富めり。知多、渥美の二大半島南方に突出して三河灣を抱く。

名古屋市は、濃尾平野の南部に在る都會なり、元、尾州侯の城下にして、金鯱を以て名高き名古屋城は第三師團司令部の所在地となり、其の天守閣は離宮となれり。七寶燒（シッポウヤキ）、名古屋燒、扇子の名産あり。其の南部なる熱田には熱田神宮あり、三種神器の一なる草薙劍を祀る。其の東なる鳴海及び有

松は絞シメの産地にして、近傍に瀬戸セトの古戰場あり。瀬戸は名古屋の北東に方り、其附近は我が國第一の窯業地なり。
 知多半島は、酒、醬油、酢等の醸造盛に行はる、其の東岸の武豊は開港場の一なり。矢作川ヤサキと大平川との間に岡崎オカザキあり、徳川家康此に生る。三河灣頭に近き豊橋市トヨハシは東部の中心市場なり。其の北に當る長篠は古戰場にして、附近の鳳來寺山と共に名高し。名古屋の北方に小牧山の古戰場あり。北西の一宮地方は機業盛なり。

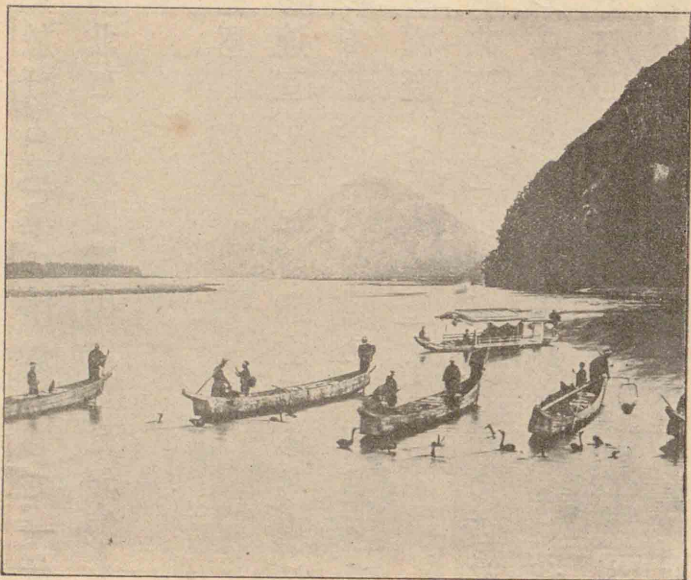
岐阜縣 (附圖第九版)

本縣南西の一隅は濃尾平野の一部にして土地肥沃、良質の米を産すれど、濃越の境上より北東部に至る地方は、土地高峻にして、東境には飛驒山脈に屬する諸山あり。神通川、庄川、飛驒川、長良川、揖斐川皆源を此處より發して南北に分流す。

木曾川は縣の南境に沿うて流下し、西濃の一局部に於て長良川に會す。此等三川の上流は雨量頗る多き地方なるに、濃尾平野は頻年洪水の害を蒙りしが、近年三川分流の工事成りて其の工事を除くことを得るに至れり。

其の南流するものは木曾山中より來れる木曾川と會し、伊勢海に入る。

岐阜市は濃尾平野にありて、鵜飼を以て名高き長良川に臨み、縮緬、岐阜提灯、岐阜團扇等を産す。附近の地、機業盛に行はれ、長良川の上流地は美濃紙の産多し。岐阜の南西に大垣オオカキあり、舟楫の便を有す。其の南西に養老瀧あり、西に歴史上有名なる關原あり、又北西の赤坂には良質の大理石を産す。南



長良川の鵜飼

東部の多治見地方は、瀬戸地方と共に陶土に富み美濃焼の産出多し。高山は東北部に於ける蠶業の中心にして、一位細工、春慶塗の名産あり。其の北西の神岡鑛山よりは銀銅を産す。

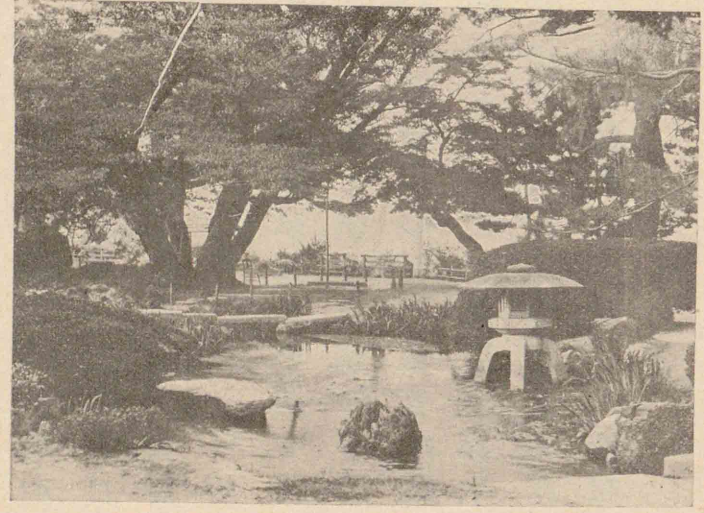
富山縣 (附圖第九版)

縣の東南西の三境は山岳連亘し、西に寶達山脈あり、東に飛驒山脈あり、富山灣に臨める北岸には一帯の平野連りて庄川、神通川、黒部川其の間を灌漑し、米穀の産に富む。
富山市は神通川に跨り、古來賣藥を以て名高し。市の西に高岡市あり、銅器及び漆器の産地なり。南に城端あり、北に伏木港あり、伏木は開港場の一にして北海道との取引盛なり。西境は歴史上有名の俱利伽羅峠あり、富山の北東の海岸に魚津あり。沿海水産に乏しからず。

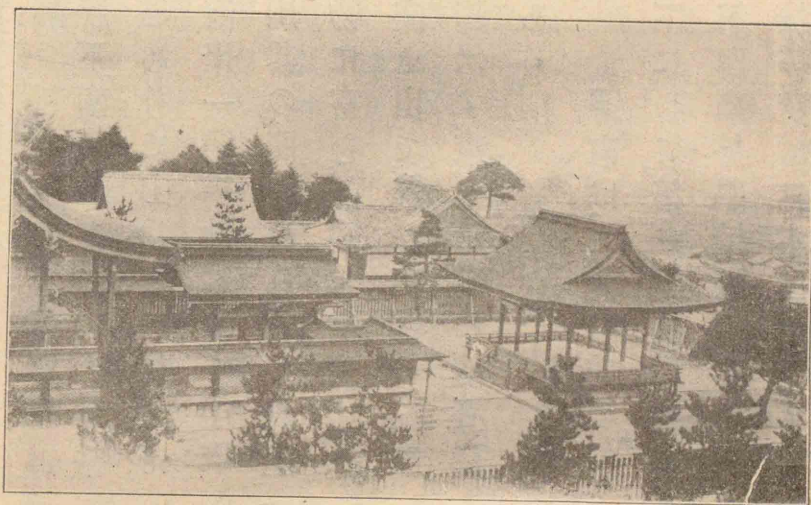
石川縣 (附圖第九版)

縣下南東境は、白山、大日岳等ありて山岳多けれども、海岸一帯平地にして、手取川其の間を流れ、甚だ農産物に富む。能登半島海中に突き出で、其の内部は丘陵起伏す。東七尾灣に能登島あり。

金澤市は、元前田氏の城下にして第九師團司令部、第四高等學校、醫學專門學校等及び日本三公園の一たる兼六園あり、市中羽二重、丸谷



兼六園



社 神 島 藤

燒銅器等の産あり。金澤市より以西の地には小松山代大聖寺等あり、小松は加賀絹及び蘭筵を産し、山代は大聖寺と共に九谷焼の取引多く、又山代及び附近の山中には温泉あり、能登半島の七尾灣に開港場の一なる七尾港あり、其の西に和倉温泉あり、輪島は能登半島の北岸に在りて漆器の名産あり。沿海又漁鹽の利あり。

福井縣(附圖第九版)

永平寺は曹洞宗の本山とす

本縣は九頭龍川、日野川等の沿岸と海岸僅少部を除く外は皆山地に屬す。

福井市は日野川の支流足羽川に跨る、元松平氏の城下にして、新田義貞を祀れる藤島神社あり。羽二重奉書紬の産地なり。福井市の東方なる志比谷に永平寺あり。九頭龍河口に**阪井港**(三國)あり、南西に**鯖江**あり、更に南西の**武生**には奉書紙、鳥子紙の名産あり、**敦賀**は敦賀灣に臨める開港場にしてウラヂボストクと定期船の航海あり。是より西南小濱灣に小濱あり、若狹塗を出す。縣下沿海水産物多く、若狹鯛、越前雲丹特に名高く、絹織物は實に縣下第一の産物にして、其の額京都府に優る。

第四節 近畿地方 (附圖第十版)

地形 近畿地方には南部と北部とに一帶の山地ありて、中間に低地を挟む、北部の山地は、中國山脈の一部にして、概ね丘陵性の山地なり。南部の山地は紀伊山脈にして、高山峻峰相連り、本邦屈指の大森林地として著はる。以上兩山地間の低地は、南北に走れる鈴鹿、葛城等の諸山脈によりて畿内平野、琵琶湖平野、三重平野等に分たれ、此等の平野には生業盛に行はれ、南北兩山地に反して交通極めて便利なり。河流は、日本海、瀬戸内海、大阪灣、太平洋、伊勢海の六斜面に屬するを以て長大なるものなし。中につき著しきものは淀川、紀川、熊野川、宮川等なり。海岸線は南部の兩側に灣入して、航通の頻繁なる大阪灣と伊勢海との二大灣を作れり。大阪灣は西淡路島に擁せられ、其の形略小判形の如く、明石海峽によりて瀬戸内海に、紀淡海峽によりて紀伊水道に通ず。伊勢海の口

に突出せる半島を志摩半島と云ひ、是より以西潮岬に至る海面は熊野灘にして、其の沿岸の屈曲恰も鋸齒の如し。日本海岸も亦屈曲甚しく、中に舞鶴灣、宮津灣等あり。氣候は日本海斜面及び海に遠ざかりたる内地は寒暑稍強けれども、其の他は概ね溫和なり。又太平洋に面する紀伊山脈の南斜面は、わが國最多雨地の一として著はる。

區劃 近畿地方は久しく帝都の地たりし畿内の地、其の主要部を成し、東山、東海、南海、山陽、山陰、五道の一小部、其の四周に連れり。現今の行政上之を分ちて左の二府五縣となす。

縣名	管轄區域	府縣廳所在地	同上人口
滋賀縣	近江全部	大津市	三八、〇〇〇
京都府	山城、丹後全部 丹波大部	京都市	三八〇、〇〇〇
大阪府	攝津一部 河内、和泉全部	大阪市	九九〇、〇〇〇

奈良縣	大和全部	奈良市	三三、一三〇
三重縣	伊勢、伊賀、志摩全部 紀伊一部	津市	三五、九〇〇
和歌山縣	紀伊大部	和歌山市	六八、〇〇〇
兵庫縣	攝津、丹波一部、播磨 但馬、淡路全部	神戸市	二八四、〇〇〇

滋賀縣 (附圖第十版)

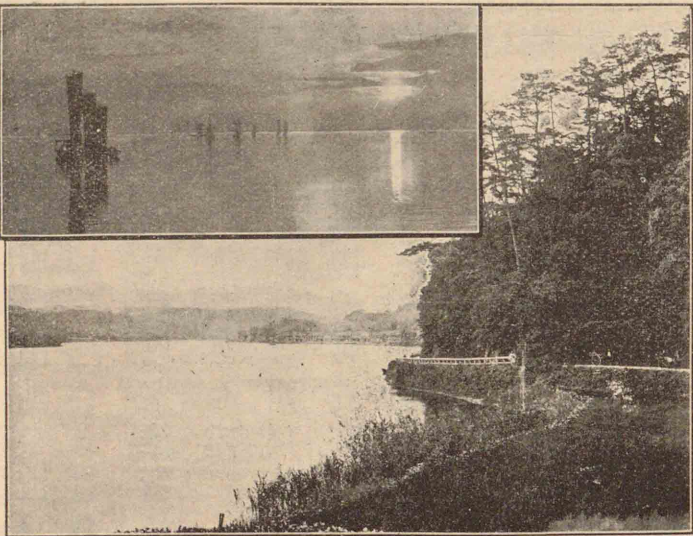
本縣は四圍悉く山を以て包まれ、中央に我が國第一の大湖なる琵琶湖あり。湖畔は大概平地にして、農業、養蠶業共に盛に、又勝景に富み、近江八景の選あり。湖は漕運、灌漑の便を與ふることに少からず、魚族多くして源五郎鮒の名最も著はる。湖水流れて勢多川となる。

大津市は琵琶湖の口に臨み、湖畔各地との取引盛なり、琵琶湖疏水は此地に起り、京都市に至る。市西の三井寺は比叡山の延暦寺と共に天台宗の本山たり。又市の北東に草津野

洲八幡等あり、草津は官鐵東海道線と關西線と相會する處。野洲は晒布の産地、八幡は蚊帳の産地なり。湖東の彦根は元井伊氏の城下にして、米原は北陸線の分るる處、長濱は濱縮緬の産地たり。姉川其の北を流る。湖北の賤嶽は七本槍の故跡として名あり。

京都府 (附圖第十版)

京都府は中國山脈域内に連亘し、比叡山、鞍馬山、愛宕山等の諸山聳ゆれども、南東部は畿内平野の一部にして淀



上圖は琵琶湖下圖は琵琶湖下流勢多川沿岸の風景

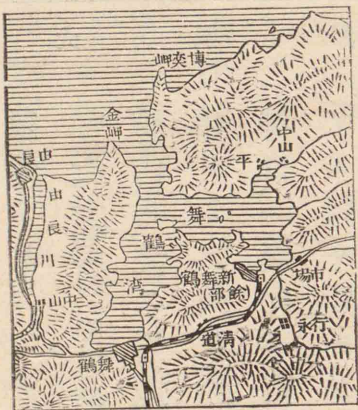


賀茂川より東山を望む

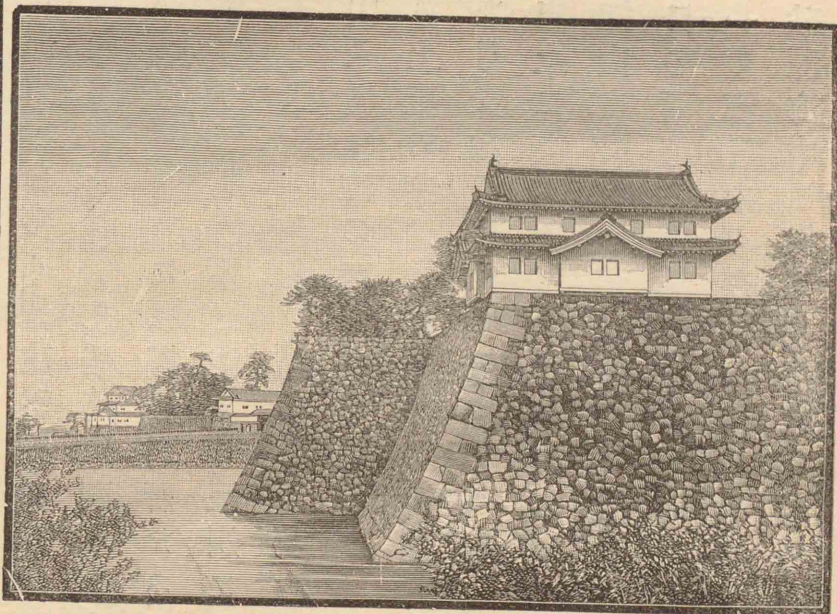
川及び其の支流、桂川、木津川等の流るゝ所なり。由良川は山地を流れて日本海に入る。

京都市は桓武天皇以來維新に至るまで、歴代の帝都たりし處にして、今尚、京都御所あり、其の他、京都帝國大學、京都帝室博物館、第三高等學校等ありて、上京、下京の二區に分れ、街路縱横に通じて、賀茂川其の中を流る。西陣織、友禪染等古より著名にして、其の産額實に我が國第一たり。又京人形、銅器、清水焼、粟田焼、七寶焼、紅白粉等の産あり。此の地名所、舊蹟、神

社、佛閣甚だ多く、賀茂神社、祇園社、清水寺、金閣寺、銀閣寺、豐國神社、北野天神、伏見稻荷、東西本願寺、知恩院、泉涌寺等市の内外にあり。西方には櫻の名所たる嵐山、紅葉に名高き高雄山等ありて、風色甚だ佳なり。淀川に臨める伏見⁽²⁰⁾淀は清酒の産多く、大阪と汽船の航通あり。男山八幡は淀の西南に位す。此より上流の宇治は宇治茶の本場なり。大和國境に笠置山あり、歴史上に有名なり。由良河畔の福知山は丹波の名邑なり。由良河口の西なる宮津は宮津灣に臨み開港場の一にして、丹後第一の都會なり。灣内の天橋立は日本三景の一にして、一里の砂洲海中に横はり、無數の老松其の上に列りて、風景絶佳な



舞鶴軍港附近地圖



大坂城

り。附近に丹後縮緬の産地あり。又由良河口の南東舞鶴灣に舞鶴軍港あり。

大阪府(附圖第十版)

管内、丹波の國境、河内和泉の南境を除くの外は、一般に平野にして、米穀を始めとし草綿菜種等の農産物あり。淀川、大和川、其の間を灌漑す。

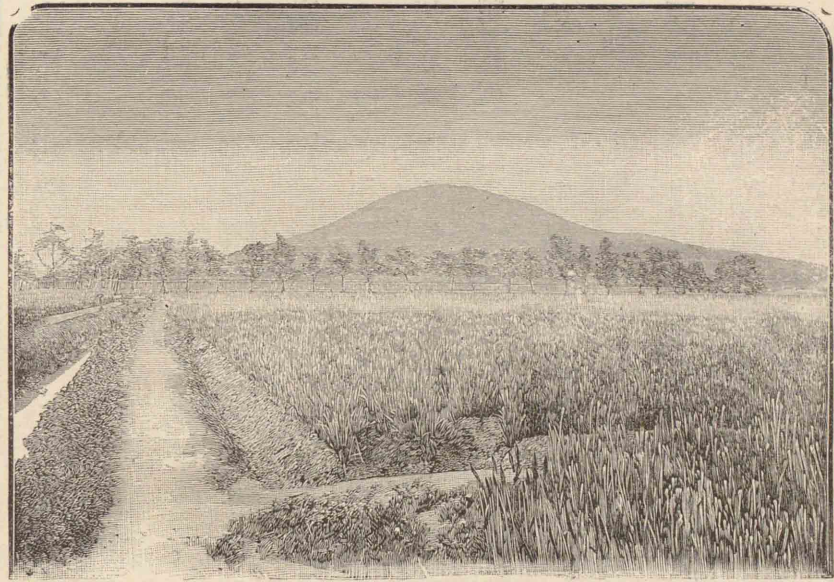
大阪市は淀川の下

大阪は東京及び京都と共に行府の稱あり。三府上東西南北の四區に分つ

四條畷に四條畷神社あり。正行を祀る

流に位し、開港場の一にして、古昔仁徳天皇の都し給ひし浪速津は即ち此地なりと云ふ。市の東北隅に立てる大阪城は豊臣秀吉の築きしものにして結構壯大全市を俯瞰す。城内今は第四師團司令部を置く。その他、市内造幣局砲兵工廠、天満天神、豊國神社等あり。此の地は大坂灣に臨み、鐵道四通するを以て全國商業の一大中心にして、畿内、北陸、中國、四國九州の貨物の集散する處なり。街路幅狭けれども溝渠縱横に通じ、數百の橋梁之に架して往來頗る便利なり。又近來各種の工業及び製造業次第に隆盛に赴き、綿絲、硫酸、マッチ、鐵器等の製造甚だ盛なり。目下工事中の大坂灣築港完成の曉には同市の繁盛は當に今日に倍するものあるべし。近傍名所少からず。四條畷は正行の戦死に依り、南方の住吉は住吉神社を以て名高し。堺市は府下第二の都會にして、足利氏の頃は

奈良の東大寺
及興福寺西
大寺村の西大
寺五條村の唐
招提寺砂村
藥師寺法隆寺
村の法隆寺大
安寺村の大安
寺(今は存せ
ず)を昔より
南都七大寺と
稱す



畝傍山と天神武天の御陵

外國の貿易港たりし處
にして、鐵器段通酒の産
あり。東南境の**金剛山**に
は楠氏の城址あり。

奈良縣(附圖第十版)

本縣は四境悉く山地に
して、吉野川・十津川・大和
川皆源を管内に發し、北
境山城に接するの處僅
かに平野を存す。

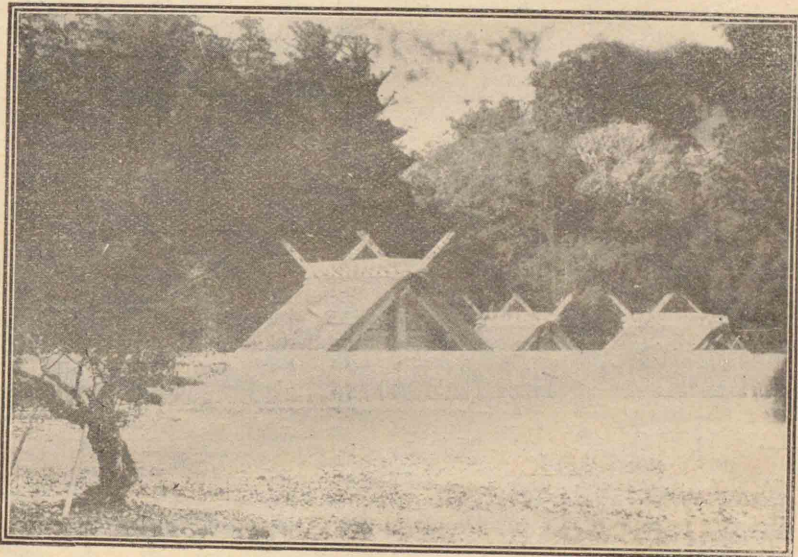
奈良市は北部平野の
中に位し、古への奈良の
都の跡にて春日神社東

大寺興福寺等の名社寺あり、正倉院及び帝室博物館には多
く古代の遺物を藏す。奈良晒布奈良漬等は市の名産なり。是
より東方の國境に梅林を以て名高き**月瀨**あり、平野の南邊
に**畝傍山**・**多武峰**あり。畝傍山は、神武天皇の御陵あるを以て
著はれ、多武峰には、談山神社を祀る。**吉野山**は吉野川の南に
あり、南朝三代の皇居たりしと、満山悉く櫻樹なるとを以て
著名なり。此の地方より吉野葛吉野紙吉野漆を出す。

三重縣(附圖第十版)

本縣は伊勢海岸の平野を除くの外は山岳重疊し平地甚だ
稀なり。志摩半島は渥美半島と相對して伊勢海の口を扼す。

津市は、元藤堂氏の城下にして伊勢海に面し、**緞子織**・**阿漕**
焼を産す。津市の北に**龜山**あり、龜山の北東に開港場の一な
る**四日市**あり、縣下第一の商工業地とす。木曾川の河口に



宮内

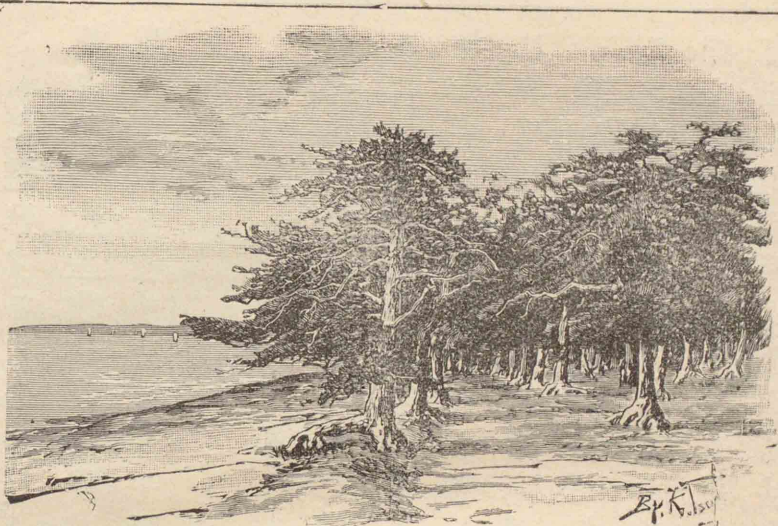
在る桑名は、萬古焼時雨
 蛤の名産あり。宮川の下
 流に宇治山田市あり。宇
 治山田とは宇治と山田
 とを併せたるものにし
 て、宇治に内宮、山田に外
 宮ありて、内宮に天照皇
 大神、外宮に豊受大神を
 まつる。春慶塗は此の地
 の名産なり。近傍の二見
 浦は勝景を以て名高く、
 其の南に鳥羽港あり、海
 上風浪荒き時は船舶の

こゝに避難するもの多し。上野は伊賀高原の中心なり。
 管内甚だ水産物に富み、伊勢蝦真珠、鱒、鯉等を産し、南西の熊
 野灘は鯨を獵す。又、東部平野は良米を産し、茶種、茶の産も亦
 少からず。

和歌山縣 (附圖第十版)

本縣は山岳域内に重疊し、紀川、熊野川の外、有田川、日高川等
 あれども平野の稍著しきものは、只、紀川の沿岸にあるのみ。
 加太岬は淡路の由良と對して、紀淡海峽を成し、潮岬は南端
 に突出して近海の航路險惡なり。

和歌山市は紀川河口に在り、元、紀州家の城下にして、綿フ
 ランネルを産す、其の南の海濱は即ち和歌浦にして、風光明
 媚を以て名あり。こゝに近き黒江は漆器の製出盛なり。高野
 山は大和國境に近く、弘法大師開基の金剛峰寺あり、此の山



舞子濱

中は杉高野槇の良材を出す。
有田川は其の沿岸紀州蜜柑
の生産地たるを以て知らる。
田邊は南紀の小都會なり。熊
野川河畔に本宮新宮の名邑
あり。那智川の上流には有名
なる那智瀧あり。又、熊野川附
近よりは無煙炭を産す。

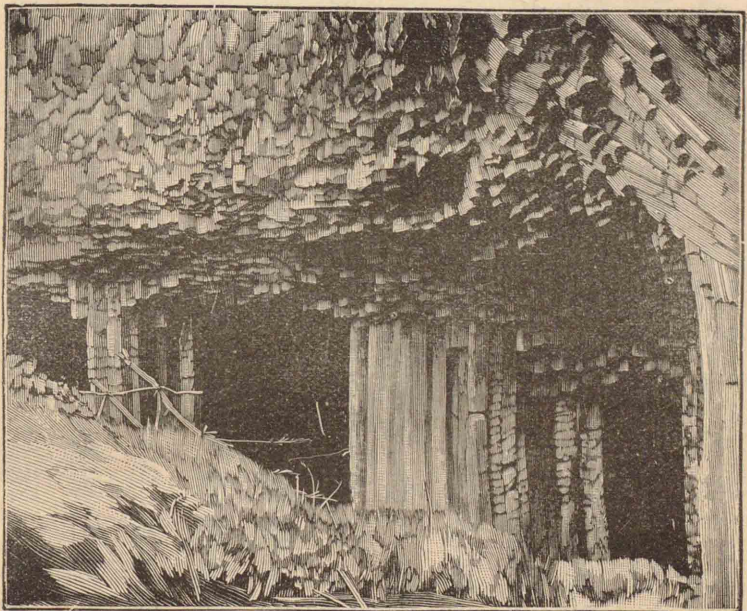
兵庫縣 (附圖第十版)

本縣は中國山脈脊梁をなす
を以て、加古川市川千種川朝
來川は皆中央山地より發す。
南海岸に平野あり。

神戸港は舊五
港の一なり

神戸市は神戸兵庫の二部より成り、關西第一の開港場な
り。外國貿易盛に行はれ、外國より輸入額の多きこと、我が國
第一たり。市中に有名なる湊川神社あり。神戸の北東六甲山
北に有馬溫泉、東に西宮あり。西宮地方を通稱して灘と云ひ、
北方の伊丹と共に清酒の醸造最も盛なり。

神戸以西海濱に沿うて須磨舞子明石あり、其の間白砂青松
前に淡路島を控え、風光明媚なり。市川の下流に姫路市あり、
第十師團司令部所在地にして姫路革を産す。其の西方龍野
は古來醬油に名高く、千種川の口に近き赤穂は製鹽と四十
七義士とに依つて著る。生野鑛山は但馬の南境に在り、朝來
河畔の豊岡よりは柳行李を産し、出石よりは出石焼を出す。
河口、湯島城、崎溫泉の近傍に岩石の奇觀を以て名ある玄武
洞あり。



玄 武 洞

淡路は瀬戸内海の東口を扼する島國にして、其の東岸由良は加太岬と對して紀淡海峽を成し、砲臺の設あり。其の北西の洲本は島中第一の都會なり、南西鳴門瀬戸に面して福良あり、附近に淡路焼を出す。

第五節

中國地方

(附圖第十一版)

地形 中國地方は本州の最も幅狭き西部を占むる地域にして中國山脈其の東西に起伏し、山陽山陰の兩斜面を分つ脊梁たれども、六千尺以上の高峰を見ず。白山火山脈は、其の北斜面に通じ、之に屬する大山(Dai-san)は、中國地方の最高點たり。河流は概ね狹長なる南北の兩斜面(Slope)を流下するを以て著大ならず、獨り江川は中國山脈を横斷し中國の大河として著する。其の他北流するものに宍道湖に注ぐ斐伊川、賀露川、南流するものに吉井川、東大川、旭川、西大川、太田川、岩國川、錦川等あれども、平野乏しく、其稍著しきものは、旭川及び太田川の下流と宍道湖畔とにあるに過ぎず。海岸の狀況は、南北大に趣を異にし、瀬戸内海岸は、日本海岸の單調なるに反して、出入多く、島嶼若散し、謂ゆる瀬戸内海式をなせり。氣候も亦地形に支配せられ、北面は、寒暑稍甚しく、冬季雨雪多きに反し

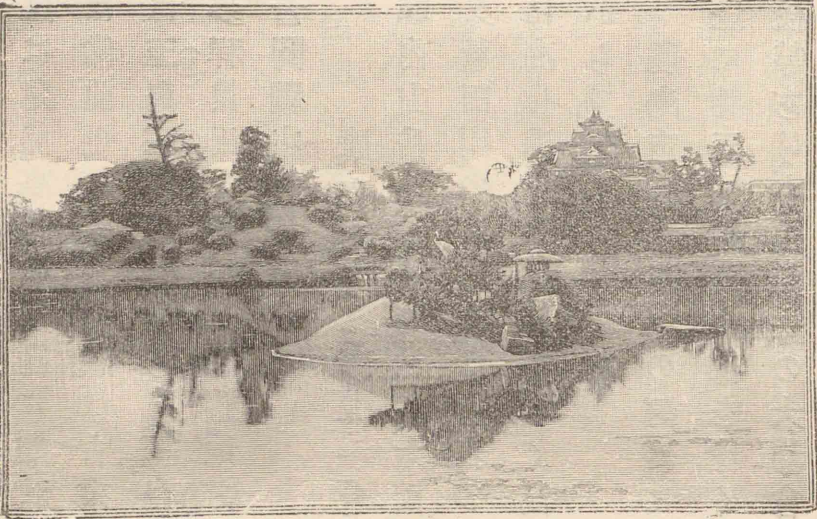
て、南面は四方高地に圍繞せられて降雨繁多ならず、四季共に順和なり。従て生業交通等よく此の方面に發達し、殊に沿岸各地に製鹽の盛なるは其の特色とする所なり。
區劃 中國地方は山陽山陰大部の地なり、現今の行政上之を分ちて左の五縣となす。

縣名	管轄區域	縣廳所在地	同上人口
岡山縣	備前、備中、美作全部	岡山市	八〇、〇〇〇
廣島縣	安藝、備後全部	廣島市	一、二一〇、〇〇〇
山口縣	周防、長門全部	山口町	一八、〇〇〇
島根縣	出雲、石見、隱岐全部	松江市	三五、〇〇〇
鳥取縣	因幡、伯耆全部	鳥取市	三一、〇〇〇

岡山縣 (附圖第十一版)

管内北部は山地なれども、南部は平地にして吉井川(東大川)

兒島灣開墾は漸次其の歩を進めつとあり



岡山後樂園

旭川(西大川)川邊川(高梁川)等其の間を流る。製鹽及び綿織物の産多き兒島半島南方に突き出でて兒島灣を擁す。
岡山市は旭川の下流に在り、元、池田氏の城下にして日本三公園の一なる後樂園及び第六高等學校醫學專門學校あり、この地綿絲華筵(ハナハシロ)を産す。津山は美作第一の都會にて、雲齋織足袋の名産あり。其の西の院

備前には蠟石
を産し備中に
は砂鐵を産す

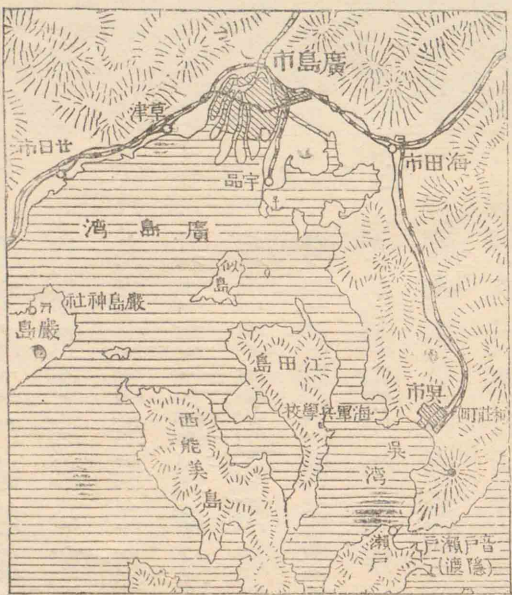
庄は兒島高德の櫻樹に題せしと云ふ處、吉井川の東の伊部は備前焼を産し、長船は古來刀劍に名あり。岡山以西の地には玉島笠岡の諸邑あり、玉島は水島灘の要津にして、笠岡は麥稈眞田を産す。又、高粱地方は煙草の産多く、其の西北には吉岡銅山あり。

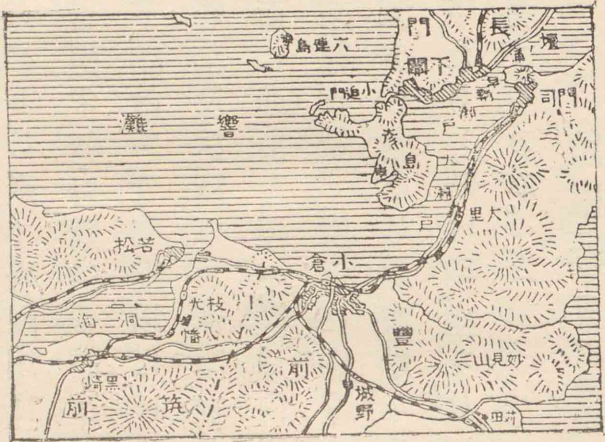
廣島縣 (附圖第十一版)

域内山岳重疊すれども、太田川流域の平野には農産物多し、又、蘆田川の流域には疊表の産甚だ多く、古來備後表の名世に高し。海岸は出入甚しく島嶼に富み、海運及び海産の利少からず。

廣島市は太田川の河口に在り、元淺野氏の城下にして、城址に第五師團司令部を置く、其の他、控訴院、廣島高等師範學校等あり、中國第一の大都會なり。海岸の宇品港は廣島市の

海運口にして兼ねて軍事上の一要津なり。明治二十七八年戦役及び三十七八年戦役に際して、軍隊及び軍需品の大輸送を此の港よりせしを以て、其の名廣く世に知らるゝに至れり。廣島灣には牡蠣の養殖盛に行はる、其の西邊嚴島には嚴島神社あり、社殿は水邊に築かれ、満潮のときは恰も海中に浮ぶが如し、日本三景の一に數へらる。此の地より竹細工を産す。廣島灣の東方に在る江田島は、海軍兵學校の所在地にして、對岸に具市あり、此の地は帝



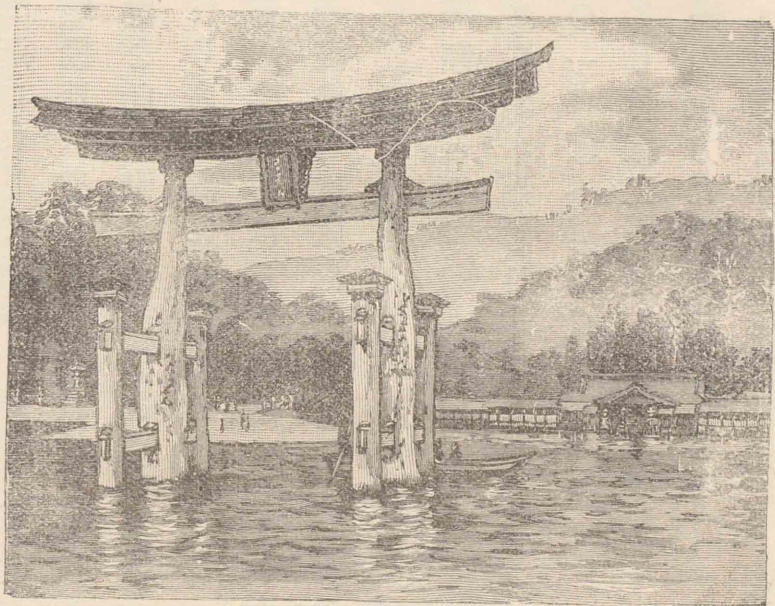


圖形地近附倉小司門關ノ下

山口縣 (附圖第十一版)

の要路に當り、附近の地大麻、砂鐵の産多し。

本縣は中國の西端に在り、中國山脈中央に蟠りて、平地少なければ、岩國川、阿武川、其の他諸川の流域には、良米を産し、沿海水産物に富む。山口は縣の中央山間に在り、大内氏の據りし所に、當時は中國屈指の都會たりき。こゝに高等商業學校あり、其の南東海岸の三田尻近傍は、製鹽の業盛なり。三田尻の東



社神島嚴

國四軍港の一にして、鎮守府及び造船所あり。備後の海岸に在る糸崎は開港場にして、其の東の尾道市は瀬戸内海航路の衝に當り、且、四國に渡る要津なり。蘆田川の東岸に福山あり、南方海岸に鞆あり、鞆は古來著名の港にして、保命酒を産す。備後山中、江川東岸の三次は安藝出雲

下ノ關は一に赤間ヶ關又は馬關と云ふ

の徳山には海軍の煉炭所あり、其の原料の石炭は縣の西部大嶺より産す。岩國川に沿へる岩國は錦帶橋を以て名高く、岩國半紙、岩國縮を産す。縣の南西端豊前の門司と相對して下關市あり、開港場にして、日清媾和條約を結びし處なると煙草及び謂ゆる赤間關硯を産するとによりて著名なり。前面に彦島を控へ、瀬戸内海西部の咽喉たるを以て船舶の往來甚だ繁く、附近に砲臺の設あり。海邊の壇浦は平家一門の滅びし處なり。北海岸なる阿武川河口の嶽は元、毛利氏の城下たりし時は稍盛なりしが、今は次第に衰へ、夏蜜柑、萩焼を産するのみ。

島根縣 (附圖第十一版)

管内、高津川、江川、斐伊川(簸川)等の河流あれども、其の沿岸平野乏しく、只、中國第一の大湖たる宍道湖の畔に稍著しき平

出雲大社は大國主神を祀る

野ありて良米を産す。南境は山岳重疊し、山間砂鐵を産す。

松江市は宍道湖東に在り、附近の地より布志名燒、瑪瑙を出す。湖は風景に富み、鱸の産あり。湖の北面を蔽ひ東に突出する半島は島根半島にして、其の東端に美保關あり、隱岐に渡る要津なり。西端を日岬といひ、其の東南に在る杵築は出雲大社の所在地なり。出雲石見の國境なる三瓶山は大山と共に中國最著の火山なり。石見の濱田は石見半紙の市場たるのみならず、又、開港場にして此の地方唯一の要津なり。是より西南の津和野は山口縣に通ずる要路に當る。隱岐は島根半島の北海中にある島國にして、島前、島後の二部より成る。島後南岸に西郷港あり。島前は更に西、島中、島知夫里島等に分れ、其の中、島は後鳥羽天皇の遷幸し給ひし處とす。又、島後は後醍醐天皇の遷幸し給ひし地なり。

鳥取縣 (附圖第十一版)

管内沿海には平地少からずして、米穀、綿等の産出あれども南境美作との間は山脈連互し、又伯耆の中央には大山及び歴史上に名高き船上山あり。日野川上流地には砂鐵を産し、大山の裾野なる大山原には牧畜業盛なり。又近海白珊瑚海松の産あり。

鳥取市は賀露川(千代川)平野の中に在る市場なり。天神河岸の倉吉は緋を産す。出雲國境に近き米子は中海に臨める商業地なり。其の北西、夜見濱の北端に在る境港は開港場にして、西に中海を控へ、東は美保灣に臨めり。

第六節 四國 (附圖第十二版)

地形 四國は近畿地方と九州との間に介在する地域にし

て瀬戸内海の南を限り、東に紀伊水道西に豊後水道を作れり。四國山脈四國の中央を略東西に走りて、阿波及び土佐の地に高峻なる山地を作り、石鎚山、劍山等最も著はる、又讃岐阿波の國境には讃岐山脈の小山脈ありて東西に走り、鳴門瀬戸を経て淡路に連續す。河流は山脈に平行して東西に走るものと山脈を横ぎりて南北に流るゝものとあり。吉野川は前者に屬して其の沿岸に廣き平野を開き、渡川(四萬十川)仁淀川、肱川等は後者に屬して沿岸平地少なし。海岸は中部の南北に二大灣入あり、南にあるを土佐灣といひ、北にあるを燧灘といふ。其の他の海岸は概ね小出入に富み、豊後水道に面する部分殊に甚し。氣候は南北斜面に於て、異なるものあり、北斜面は其の他の瀬戸内海岸の如く降雨少く又暑熱稍強し。南斜面は、我が國最多雨地の一にして頗る溫暖なり。要

するに北斜面は一大湖の如き瀬戸内海に面して海上交通の便に富み、其の沿海には盛大なる鹽田あり、南斜面は、風浪高き外洋に面して、交通の便乏しけれども、黒潮其の岸を洗ひ、漁業の利多く、陸上は樹木の生育盛なり。
區劃 四國は南海道の一部なり、之を分ちて左の四縣となす。

縣名	管轄區域	縣廳所在地	同上人口
德島縣	阿波全部	德島市	六三、〇〇〇
高知縣	土佐全部	高知市	三五、〇〇〇
愛媛縣	伊豫全部	松山市	三六、〇〇〇
香川縣	讃岐全部	高松市	三七、〇〇〇

德島縣 (附圖第十二版)

本縣北境に讃岐山脈あり、四國山脈東西に連互して、中に劍

祖谷谷は奇峭
幽邃を以て名
あり

山祖谷谷等あり、北に吉野川南に那賀川あり、吉野川平野には葉藍の栽培多く、其の産額全國に冠たり。

德島市は吉野川の河口地に在り、此の地は、元、蜂須賀氏の城下にして、緘織の名産あり。北方海岸の撫養は淡路の福良と相對して、鳴門海峡の要津なり、附近は齋田鹽の産地なり。鳴門海峡は潮流急激にして盤渦をなし、舟行甚だ危険なり。德島の南方に小松島富岡の名邑あり、西方吉野川に沿ひて脇町池田等の諸邑あり、脇町は藍の市場にして池田は煙草を産す。

高知縣 (附圖第十二版)

管内渡川・仁淀川・物部川の沿岸に小平野あり、其の仁淀河邊より物部川に至る間の平野は、謂ゆる高知平野なり、其の他は悉く山地に屬せり。室戸岬、足摺岬南方に突出して、土佐灣

を擁す、此の間の海上は古來捕鯨を以て名あり。
高知市は高知平野に在り、此の地は元、山内氏の城下にし
て、南に浦戸港を控ふ、浦戸の西、須崎港附近は製紙の業甚だ
盛にして、土佐紙の名世に高し、足摺岬、室戸岬の近海は漁業
盛にして土佐節、土佐珊瑚殊に著名なり。

愛媛縣 (附圖第十二版)

本縣南境は、四國山脈連互せるを以て、山岳重疊し、中央に石
鎚山あり、佐田岬は西方に突出して、豊後の佐賀、關と對し、豊
豫海峡を成せり。高繩半島北方に出でて遙に安藝と對す。
松山市は西部の小平野に在り、伊豫、緋、伊豫、縞の産地にし
て、東に有名なる道後の温泉あり、南に砥部焼を産する砥部
あり。松山の西なる三津濱と高繩半島の東岸なる今治とは、
内海航路の要港にして、今治の南東に西條の名邑あり。西條



金刀比羅宮

の南、市川はアンチモニーの産地にして、其の東、別子^{ベツコ}は銅の
産出を以て著る。八幡濱^{ヤチマツ}、宇和島^{ウヰノ}は豊後水道の要津にして
此の地方には木蠟、伊豫簾
を産す。

香川縣 (附圖第十二版)

本縣は南に讃岐山脈を貫
ひ、海岸に五劍山^{ゴケンザン}、白峰等あ
りと雖も甚だ高からず、平
野割合に多くして、甘蔗の
栽培行はれ、讃岐三盆白の
名世に高し。
高松市は北岸に在り、内
海の一要港にして、保多織

の産あり。其の北東の屋島は、源平の古戰場に名高し。海上の小豆島は神懸溪の景と醤油の産とを以て著はる。東岸の引田は砂糖、醤油の産地なり。西部の海岸に坂出、丸龜市、多度津あり。坂出は製鹽業の盛大を以て聞え、丸龜市は西部第一の都邑なり。又多度津は中國に通ずる要津なり。其の南東、善通寺に第十一師團司令部を置く。象頭山麓の琴平は金刀比羅宮あるに依りて著名なり。

第七節 九州地方 (附圖第十三版及第十四版)

地形 九州地方は、九州島と島嶼部とに分る。九州島には、南北兩部に主要の山脈あり。南にあるを九州南部山脈といひ、九州地方最高の祖母山及び市房山之に屬す。北にあるを九州北部山脈、筑紫山脈と稱し、丘陵性の山岳多し。阿蘇山を主

山とする阿蘇火山脈、其の間に通じて、東に九重山、由布嶽、西に温泉嶽等を起せり。河流は諸方に背駛するもの多きを以て筑後川、川内川を最著とすれども、他の四大島の大河に及ばず。されど北西の兩岸には平野の比較的大なるものあり。筑紫平野最も著はる。海岸線の發達は五大島第一に位す。是れ重に其の北西兩岸に半島、澳灣等極めて多きがためにして、其の著しきものは、薩摩大隅兩半島の鹿兒島灣を、島原半島の有明海を、彼杵半島の大村灣を抱き、北松浦半島の伊萬里灣を、東松浦半島の唐津灣を擁せる等なり。從て繁盛なる港市も此の方面に多く、海陸共に交通の便よく備はれり。氣候、北斜面は稍中國の北斜面に類すれども、其の他は概ね溫暖なり。殊に南部は霜雪稀に、降雨多く、樟樹、柑橘、檳榔等のよく繁茂する所あり。又著名の森林少からず。

區劃

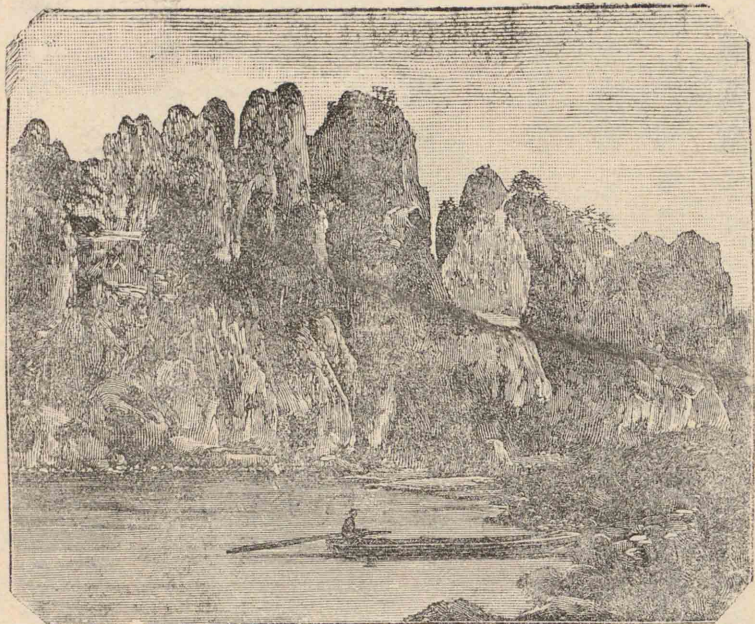
九州地方は西海道の地なり、分ちて左の八縣となす。

縣名	管轄區域	縣廳所在地	同上人口
大分縣	豊後全部 豊前一部	大分町	一一、〇〇〇
福岡縣	筑前筑後全部 豊前一部	福岡市	七〇、〇〇〇
佐賀縣	肥前一部	佐賀市	三四、〇〇〇
長崎縣	肥前一部 壹岐對馬全部	長崎市	一五二、〇〇〇
熊本縣	肥後全部	熊本市	五九、〇〇〇
宮崎縣	日向全部	宮崎町	一一、〇〇〇
鹿兒島縣	薩摩大隅全部	鹿兒島市	五八、〇〇〇
沖繩縣	琉球全部	那覇區	四三、〇〇〇

大分縣

(附圖第十三版)

域内山岳重疊し、英彦山(1,244)・九重山・祖母岳等縣境に聳え、中部に鶴見岳(1,491)・由布岳(1,244)・國東半島に兩子山等(741)あり、國東半島の南に佐



賀關半島あり、兩半島の間は別府灣を抱く。大野川及び山國

川(1,491)の下流沿岸には平野ありて農産少からず、山國川は英彦山より發し、其の上流の山國谷一名耶馬溪は奇景を以て稱せらる、九州第一の巨流なる筑後川は、源を管内中央山地より發して有明海に注ぐ。

大分は別府灣の邊にあり、其の北なる別

府は有名なる温泉場にして浴客常に多く、又四國に渡る要津なり。之より國東半島に至る地方は、疊表の主産地にして以北の平野に長洲・宇佐・中津あり。長洲は米の積出し多く、宇佐は八幡宮を以て史上に著し、中津は山國川の河口に臨める商業地なり。縣の南方に臼杵・佐伯の二港あり、共に良錨地にして近海漁利に富めり、大野川上流の竹田は熊本縣に通ずる要路なり。

福岡縣 (附圖第十三版)

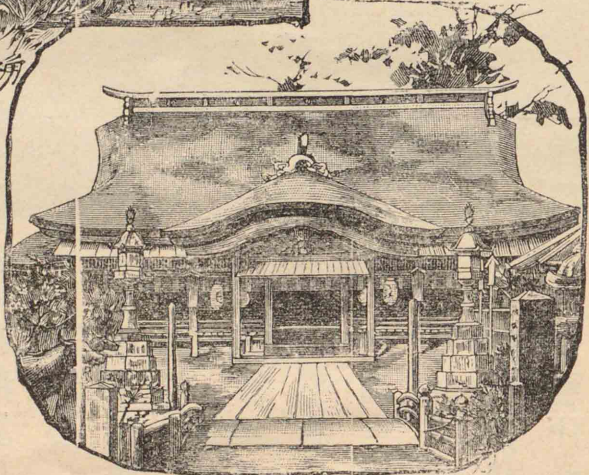
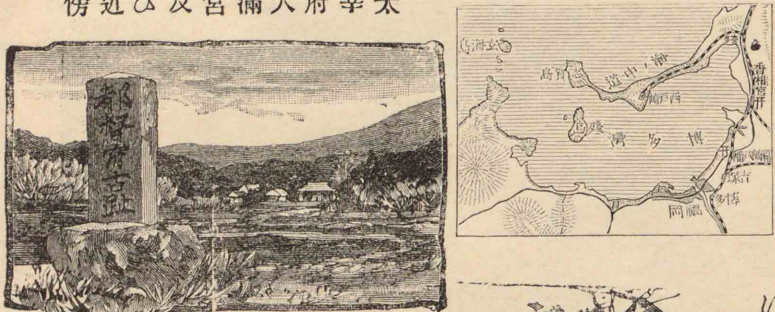
本縣東部は山岳多く、西部は平野多し、遠賀川・筑後川等其の間を灌溉し米其の他の農産物に富む。海の中道は海中に斗出して博多灣を擁し灣口に玄海島あり。

福岡市は博多灣の岸に在り。博多・福岡の二部より成る。福岡は、元・黒田氏の城下、博多は開港場にして、博多織の特産あり。

福岡市の北端に京都帝國大學福岡醫科大學あり

博多箱崎附近には三韓征伐及び元寇の遺跡甚だ多し

太宰府天満宮及び近傍

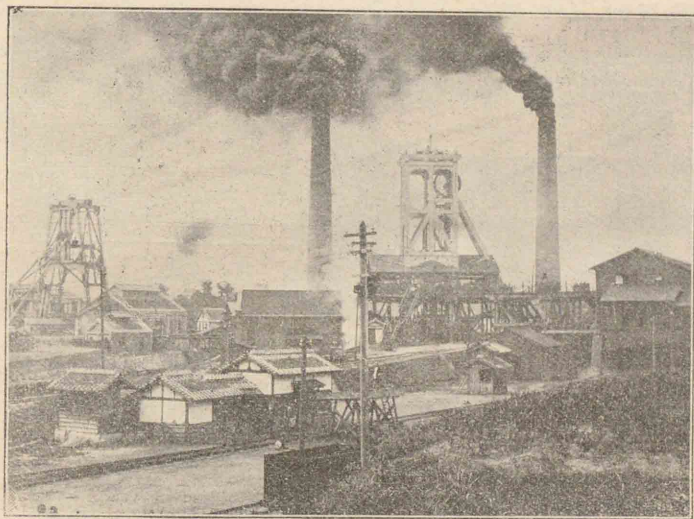


り。福岡市の北東箱崎に箱崎八幡宮、香椎村

に香椎宮あり、此の間白砂青松風景甚だ佳なり。洞海の灣口に在る若松は開港場の一にして石炭輸出の要津なり、其の南なる八幡に製鐵所あり。小倉市は第十二師團司令部の所在地にして、鐵道豊州線の分る

る處、市中小倉織の特産あり。門司市は下の關と相對して、瀬

戸内海の咽喉を扼す、是亦開港場にして、石炭の輸出甚だ多し。遠賀川上流地域は謂はゆる筑豊炭田の中點にして、炭山極めて多く、直方は其の中央に在り。福岡南東の太宰府は史上に名高き處にして、太宰府神社あり、近傍に觀世音寺及び都府樓の遺址あり。南方筑後川南岸に、久留米紼の本場たる久留米市あり。其



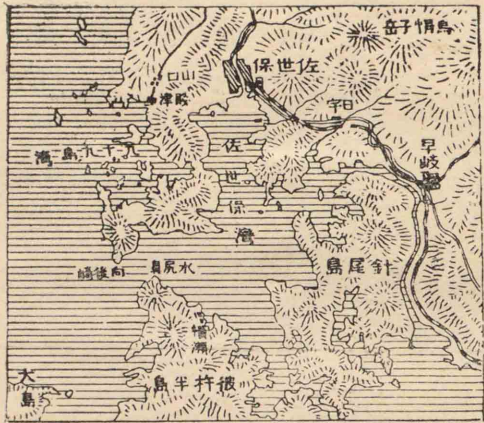
三池炭山

の河口に若津港あり、清酒の産多し。熊本縣境に近き三池炭山は我國第一の大炭山にして、石炭産出の多きを以て聞え、築港中の大牟田港より盛に之を輸出せり。

佐賀縣 (附圖第十三版)

管内北半は山岳連互するも、南有明海に臨むの地方は謂ゆる筑紫平野の一部にして、農産豊なり。

佐賀市は平野の中央市場にして、元鍋島氏の城下なりき、其の北東に當れる鳥栖は鐵道の分る處なり。又其の遙か西方に武雄有田等あり。武雄は温泉によりて名高く、有田は有田焼の産地、有田の北なる伊萬里は有田焼の輸出を以て聞ゆ。唐津灣内に在る唐津港は開港場にして、附近より石炭を出す、其の東の領巾振山及び北西の名古屋は歴史上共に有名なり。



佐世保軍港附近の圖

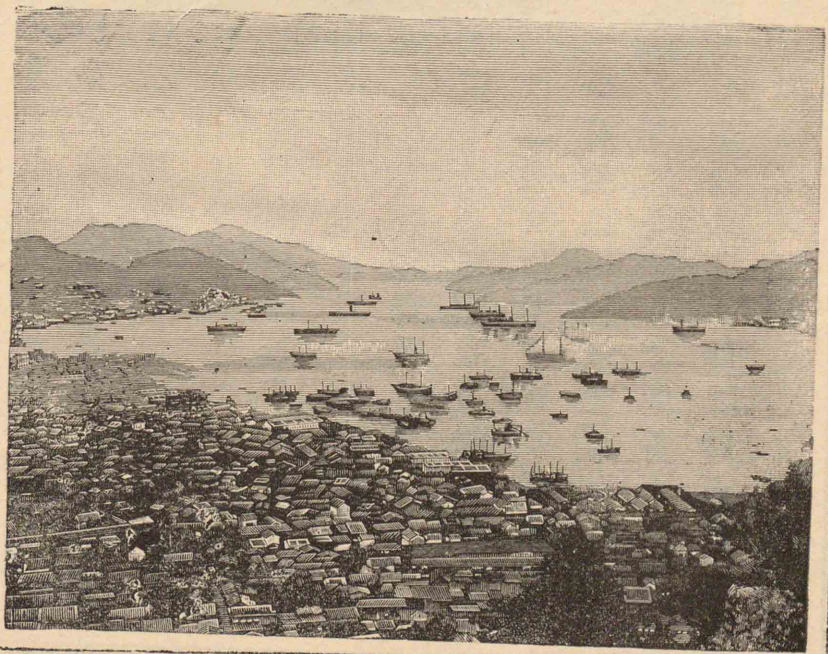
場にして、**口津**は開港場、**島原**は東岸の名邑なり。大村灣内に**大村**あり、其の北西**早岐**は佐世保線の分るる處なり。**佐世保市**は我が國四軍港の一にして、鎮守府あり、元一寒村に過ぎざりしが、軍港開設以來現時の繁榮を來せり。平戸島の平

崎其の南に突出して、良灣をなす、此の地は古來支那・オランダとの貿易場たりし處、今は開港場の一として、海外との貿易盛に行はる。長崎煙草、雲丹、鱸等の名産あり、對岸に造船所の設あり、港外の高島は石炭を産す。島原半島の小濱は溫泉

長崎縣 (附圖第十三版)

本縣は九州の最西端に在りて、海岸の屈曲甚だ多く、島原半島は有明海に突出して、中央に**溫泉岳**の火山あり、又**彼杵半島**西に横はりて**大村灣**を抱く。海上には、**壹岐對馬平戸五島列島**等の諸島あり。

長崎港



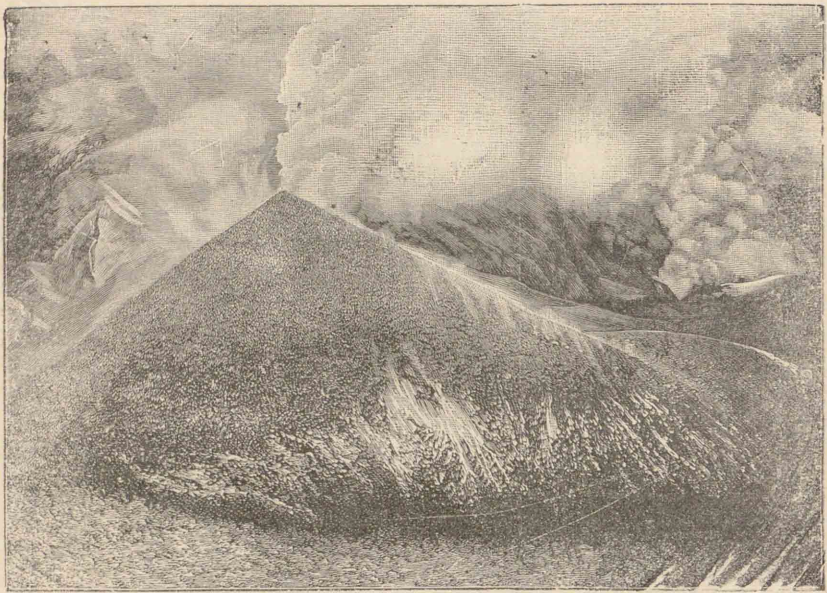
戸はポルトガル人と早くより貿易を爲しし地なり。五島列島は中通島、福江島及び數多の小島より成り、福江島には同名の港あり、鰯及び捕鯨を以て名あり。

壹岐は平戸島の北に方り、勝本郷浦の二港あり。其の北西の對馬は上下の二島より成り、韓國と相距ること僅かに三十餘哩、東岸の嚴原は西岸の佐須奈鹿見と共に開港場にして、竹敷は海軍の要港たり。此の島は漁業盛にして、鱒、雲丹、干鮑等を産す。

熊本縣 (附圖第十三版)

本縣は東境に九州南部山脈ありて山岳重疊し、其の北東には阿蘇火山ありて盛に噴煙せり。西方一帶の平野は、菊池川、白川、緑川及び球磨川等之を灌漑し、米、粟、麥、甘藷等の農産物に富み、就中米は良質にして、肥後米の名世に高し。

球磨川は日本三急流の一



熊本市は白川の下流に在り、元細川氏の城下に於いて、其の熊本城は加藤清正が築きし名城たるのみならず、明治十年西南の戦役に依りて其の名高し、現今は城内に第六師團司令部を置く。其の他近郊に第五高等學校、成趣園等あり、煙草、朝鮮餡、赤酒等を産す。宇土半島に開港場の一たる三角港あれども、港内

阿蘇噴火口

熊本の北なる
田原坂植木
葉等は十年西
南の役に兩軍
の激戦せし處
なり

狭くして大船を入るに足らず。球磨川河口の八代(ヤツシロ)は此の地方の名邑にして、八代宮及び其の附近に高田焼(タカノカ)の産出地あり。天草島は、上下の二大島及び小島より成り、無煙炭を出す。球磨川の上流山間に在る人吉(ヒトヨシ)は鹿兒島宮崎兩縣に通ずる要路にして、元、相良氏の城下たり。人吉の北東日向國境に近く五家莊あり、日向の米良と共に古來平氏の一族の隠れし處なりといふ。

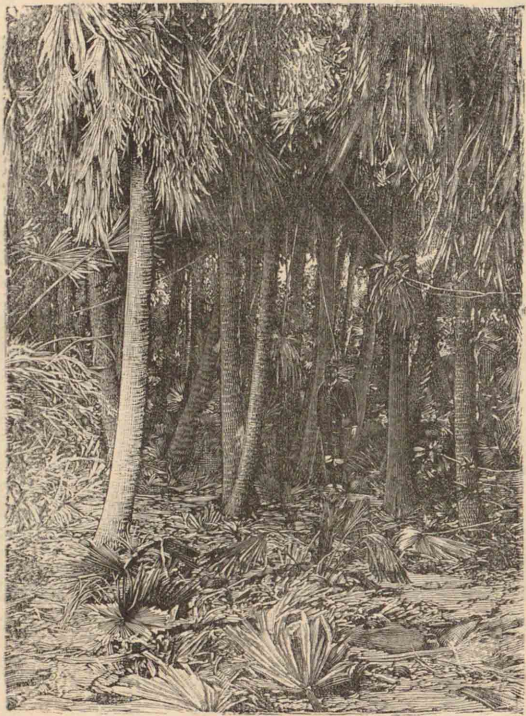
縣下は阿蘇火山脈及び霧島火山脈に當るを以て、所々に溫泉多し。山鹿(ヤマカ)・日奈久(ヒナク)等は其の著名なるものなり。

宮崎縣 (附圖第十三版)

本縣は三方悉く山脈に圍まれ、只、東海岸僅かに平野を存して、米、甘藷等の農産物を出す。山地は林産に富み、日向馬の産あり。大淀川(オホソド)・一瀬川(イツセ)・美々津川(ミヅツ)・五箇瀬川(イツツノ)皆源を西境に發し、共

に日向灘に注ぐ。

宮崎は大淀川の左岸に在りて、附近に神武天皇を祀れる



青島の熱帯植物

宮崎宮あり。宮崎の南方海岸に熱帯植物の繁茂を以て名高き青島あり。鉄肥(テツヒ)は南部の名邑にして、其の南東の油津港は縣下の良港たり。都城(ミヤコ)は鹿兒島

縣に通ずる要路に當り、製茶萬年青(マンネンセイ)の産あり、縣下第一の都邑とす。其の北西の霧島山は、霧島火山脈の主山にして、東嶽(トウガク)

西嶽に分れ、噴火口甚だ多し。宮崎の北方に佐土原、高鍋、細島(1782)延岡の諸邑あり、細島は縣下の良港、延岡は北部地方の名邑なり。延岡の西方五箇瀬川の支流に沿ひ、日平、檳峯の二銅山ありて銅の産出多し。

鹿兒島縣 (附圖第十三版及び第十四版)

本縣亦山地多くして平野少なければども、到る處に甘藷を栽培すれば、其の産額は全國に冠たり。大隅の南端は、佐多崎にして薩摩半島と相對して鹿兒島灣口を扼せり。鹿兒島灣内の櫻島は火山にして、其の裾野は櫻島大根、赤蜜柑を産す。
鹿兒島市は鹿兒島灣内に在りて櫻島に對す、元、島津氏の城下にして、第七高等學校あり、薩摩緋、錫器、竹細工を産す。市西に西南の役に名高き城山あり、市南の谿山は錫の産地なり。之より以南の地に揖宿及び山川港あり、揖宿地方は煙草



鹿兒島櫻島を望む

を栽培す、山川港は噴火口の跡にして、元、琉球との航通繁かりき。
開聞岳(927)は山川港の西に在り一に薩摩富士といふ。川内川の上流に在る大口は加治木の北方なる山野と共に本縣最著の金産地なり。鹿兒島市の北西に在る伊集院は、薩摩焼の本場として知らる、西部海岸は一帶に

漁業盛にして其の薩摩節は世に稱せらる。加治木は大隅の一都會、國分は國分煙草の本場なり。島嶼には薩摩の西に上下顛島あり。大隅の南に種子屋久の二大島等あり、種子島は鐵砲の傳來を以て名高く、屋久島は著名の屋久杉及び鯉節を産す。吐噶喇列島は屋久島の南西に羅列し、奄美群島は此の列島の南方に連れり、奄美群島は大島、喜界島、徳之島、沖之永良部島、與論島の五より成る。中就き大島は大島紬の本場として著れ、北岸に名瀬港あり。沖之永良部島は永良部鰻を産す。

沖繩縣 (附圖第十四版)

本縣は奄美群島と臺灣との間に在る五十餘島より成り、地形狭小にして、終歲雪を見ず、然れども春秋には颶風の襲來屢なるを以て、家屋は大概低く、周圍に石垣を繞らせり。住民

男女共に髪を結び簪を挿む男逸女勞の風ありて女子は跣足にして物を運ぶに必ず

頭上に載す

先島群島は臺灣と共に西部標準時を用ふ

臺灣とはもと支那人の名づけしものにして西洋人はフオルモーズと云ふ

は甘藷を常食とし、豚の飼養盛なり。其の言語風俗内地人と稍異なりと雖も、次第に内地化するに至れり。

管内沖繩、先島の二群島に分れ、前者の主島は沖繩島にて那覇區、首里區の二名邑あり。那覇區は開港場の一たり、芭蕉布、緋泡、盛黑砂糖、漆器等を産す、近海には又、玳瑁を出す。首里區は、元、王城の所在地にして其の東の中城灣は天然の良港なり。先島群島は更に宮古八重山の二列島より成り、宮古島、石垣島、西表島等最も大なり。

第八節 臺灣 (附圖第十五版)

臺灣は琉球の南西に在り、臺灣海峡を隔てて支那南部と相對す。地形南北に長く東西に狭く、其の面積殆ど九州に同じ。シルヴァ、新高の兩山脈中央より東に偏して南北に亘り、東

平均温度攝氏
二十三度弱最
暖攝氏三十六
度

側は傾斜急峻にして海岸絶壁多く、西側は一帶平野にして海岸には砂丘連なれり、南淡水溪、西螺溪、淡水河等其の間を灌漑すれども古來堤防の設なくして、荒蕪に委したるを以て、淡水河の外は舟運の便なく、耕地は一段高き臺地の上に在り。其の南部熱帯に入るを以て、内地の如く氣候温和ならずと雖も、夏季涼風ありて炎熱堪へ難きにあらず。

臺灣は古來南洋蠻人の占領する所たりしが、足利末世に倭寇の手に歸し、後、ヨーロッパ人の知る所となり、オランダ人此處に殖民地を建設せしが、西曆千六百六十二年鄭成功彼等を放逐して之に據れり。後、清國の有に歸せしが、明治二十七八年戦役の下關係約によりて我が國に轉屬せしなり。

臺灣の住民は凡そ五萬の日本人の外、支那種族とマライ人種に屬する蕃族とより成れり。而して蕃族は更に分れて熟



蕃生の酋長

とは重に
東部山地
に住して
蕃社を成
し、全く支
那人種と
交通せざ
るものに
して概ね

蕃生蕃の二族となる。支那種族は重に支那の福建、廣東地方出のものにして、熟蕃とは蕃族の支那風に化せるもの、生蕃性殺伐を好み、往々支那種族及び熟蕃の首級を多く得るを以て名譽とせるものあり。

住民の言語は、支那の泉州語及び廣東語にして、生蕃は南北蕃社によりて異なり。熟蕃語は前二語の混合せるものにして、其の宗教の如きは別に一定せるものなく、佛教・儒教・基督教共に信仰せらる。

生蕃の婦人



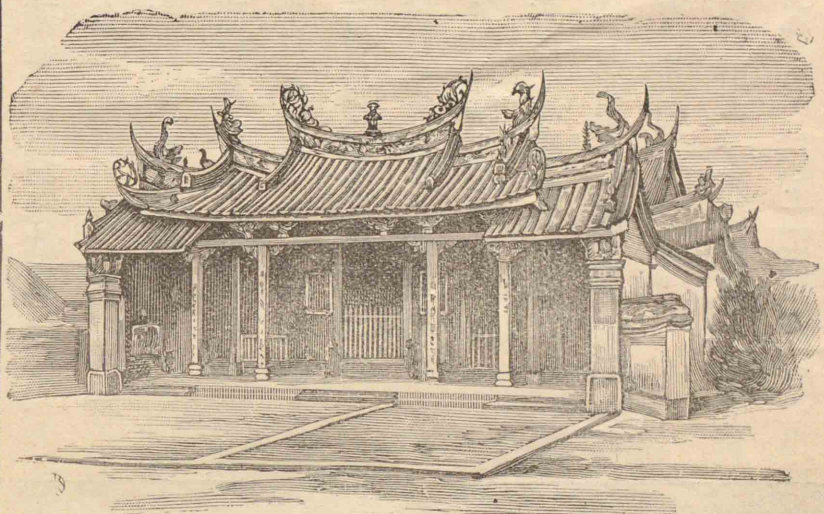
本島は殆ど其の半は熱帯に位し加ふるに土地肥沃なるを以て、植物の生育に適し、従つて、茶・砂糖・樟腦等の産出多く、米の如きは年に二回の收穫あり、其の他水産には食鹽あり、鑛産には

硫黄・石炭・石油及び砂金等あり。

本島は海路には大阪商船會社・郵船會社及び外國汽船の定期航行あり、西部には縦貫鐵道ありて稍便利なりと雖も、大部の地は其の道路すら甚だ不完全にして、旅客尙輻を用ふ。

臺灣土人の家屋及び橋





臺灣の寺院

ありて之を總管す。今便宜の爲めに北部地方西部地方南部地方東部地方及び澎湖群島に分ちて之を述べべし。

北部地方

此の地方は西北部に大屯火山脈南部にシルヴア山脈あり、其の間は一般に平野にして、淡水河は此の中央を流る。臺北は平野の中央に在る都會にして城内大稻埕、艋舺の三部より成

る。城内に總督府覆審法院及び混成第一旅團司令部等あり。大稻埕、艋舺は商業地にして殊に大稻埕は烏龍茶の取引盛なり。北東海岸の基隆は内地に對する要津にして、又開港場の一なり、附近には石炭及び砂金の産地あり。宜蘭は東岸の名邑にして、其の南東に開港場の一なる蘇澳港あり。又臺北の西北淡水河口に滬尾淡水港あり、本島第一の開港場にして商業盛なり。

西部地方

西部地方は本島西部平原一帯を含み、北の方新竹より南の方臺南に至るまでを總稱す。

苗栗は北部に在り、樟腦の産を以て知らる。臺中は此の地方の中央に在り、其の南西の彰化と共に農産地の中心なり、彰化地方の海岸には嘗て支那との取引盛なりし塗葛窟あり。

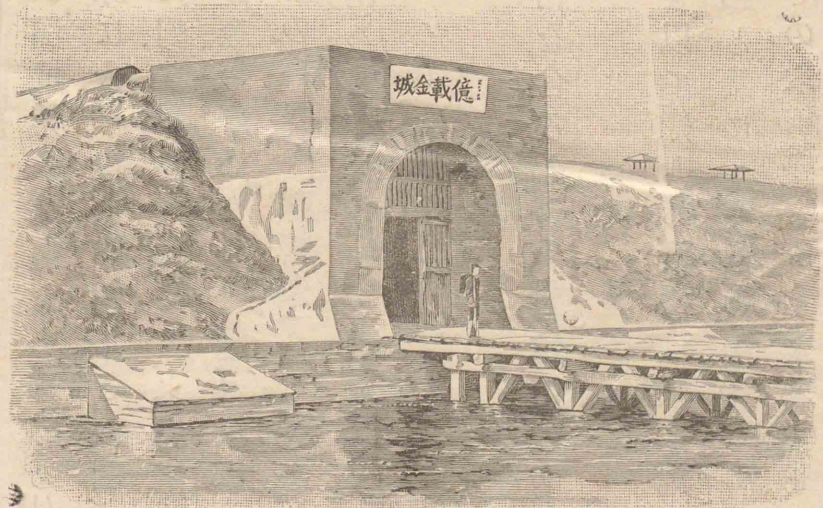
嘉義は製糖及び農産の集散多し。

南部地方

南部地方は臺南より南恒春に至るまでを總稱するものにして、東方は山地なれども西方は平地なり。

臺南は南部地方の都會にして、混成第二旅團司令部所在地なり、商業の盛なること南部臺灣中第一なり。其の西の安

紅毛城址

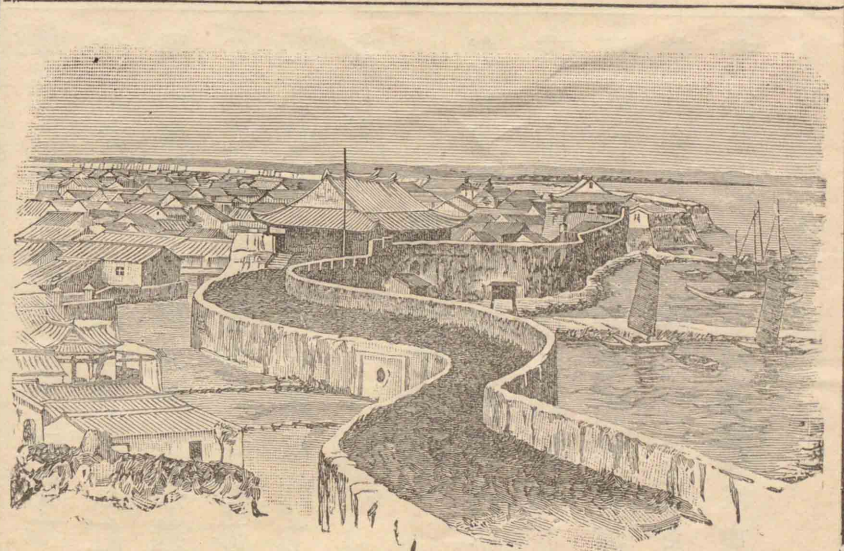


平港は開港場にして、砂糖樟腦鹽等の輸出多く、今より二百年前オランダ人の據りし紅毛城址尙存せり。臺南の南方の鳳山は臺南及び北部の嘉義と共に製糖の中心地にして、其の西なる開港打狗は穀物砂糖を輸出す、恒春は本島の最南に在り、其の南東の端は即ち南岬にして、我が帝國の極南點なり。

東部地方

東部地方とは新高山脈及びシルヴア山脈以東の地にして、其の中部の海岸には之に並走する臺東海岸山脈あり、其の間には卑南溪蕃萊溪等の河川あれども平地極めて乏しく、蕃社多し。卑南溪河口に近き卑南は此の地方の中心なり、蕃萊溪の河口なる花蓮港は東岸の要津とす。

澎湖群島



澎湖群島は臺灣海峡に散在する白沙島・漁翁島及び澎湖島其の他數多の小島の總稱にして、其中澎湖島最も大なりとす。澎湖島西部の媽宮は開港場の一なるのみならず、又海軍の要港なり。澎湖海とは白沙漁翁及び澎湖島の三島によりて圍まれたる海面にして、港内は水深く大船の碇泊には頗る便利なりとす。

第九節 北海道

(附圖第十四版及び第十六版)

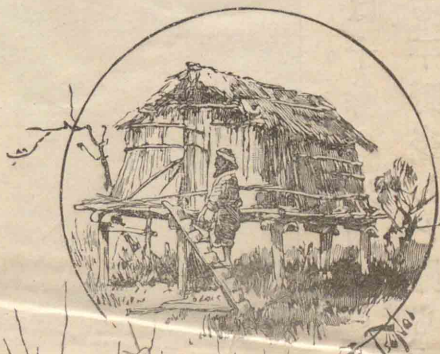
北海道は十州島及び千島列島より成り東端はカムチャツカ



北海道は十州島及び千島列島より成り東端はカムチャツカ半島に接し、南端は津輕海峡を以て本州に對す。蝦夷山脈南北に連互して地を東西に分てり。道中火山多く、内浦灣

(二名噴火灣)の附近には十餘の火山あり。石狩川・天鹽川・十勝川等の流域は廣漠たる平野多しと雖も、未だ全く開拓せら

れたりと云ふべからず。海岸の出入は南西部を著しとし、渡島半島は、内浦灣を抱きて南方に出で、津輕海峽面には函館灣を作り、積丹半島は北西に挺出し、石狩灣其の東に灣入せり。其の他、東部の海岸には、厚岸灣、根室灣などあり。本島の氣候は一般に寒冷なれども、耕作に適せざるにあらねば、馬鈴薯、大小豆、大麻、麥等の農産物も



マイアの家の屋



本道支廳名
(括弧内は支廳所在地)
 函館支廳
(函館)
 空知支廳
(岩見澤)
 札幌支廳
(札幌)
 檜山支廳
(江差)
 上川支廳
(旭川)
 壽都支廳
(壽都)
 浦河支廳
(浦河)
 岩内支廳
(岩内)
 小樽支廳
(小樽)
 増毛支廳
(増毛)
 室蘭支廳
(室蘭)
 宗谷支廳
(稚内)
 網走支廳
(網走)

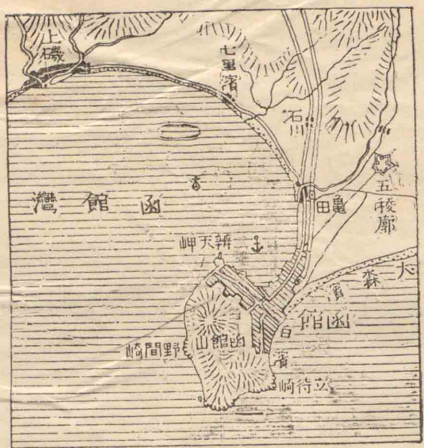
り。近海には、鮭、鱈、昆布、干鮑等の水産甚だ多く、産額全國第一たり。石炭の産も亦多し。此の他、馬、麥、酒、砂、金、硫黄及び千島近海の海獣は主なる物産なり。本道は昔アイヌ種族の居りし處なるが、内地人の移住するに及んで、アイヌは次第に山間に隱退し、漸次衰滅して、現今其の數僅かに二萬に充たず。内地人とは全く言語風俗を異にし、粗造の家屋に住し、アッシと稱する衣服を着け、魚皮の靴を穿ち、常に漁獵を事とせり。一般に多毛にして鬚髯最も多く、有夫の婦女は口邊に黥せり、性魯鈍なれども又全く教育の望みなきにあらず。本島は十六支廳三區にて分轄し、北海道廳之を總管す。今便宜の爲めに西部地方、東部地方及び千島列島に分ちて之を述べべし。

西部地方

河西支廳(帶廣)
釧路支廳(釧路)
根室支廳(根室)
函館は元五港の一

西部地方とは、蝦夷山脈以西の地をいふ。函館區は津輕海峡に面する開港場にして、港内水深く大船の碇泊に適し、本道第一の繁華の地なり。其の北の五稜廓は戊辰の戦役によりて名高く、又此の地の濠にて函館氷を製造す。西海岸に福山江差(エサシ)と岩内(イワノウチ)あり共に鱒漁の中心なり、又福山は元、松前と稱せし處なり。石狩灣に臨める小樽區(オホ樽)は本道にて最もよく開けたる石狩平野の咽喉に當れる開港場にして、貨物の集散盛なり。札幌區(サッポロ)は石狩平野の中心にして麥酒、麻布等の製造盛に行はれ、北海道廳東北農科大學等此にあり。石狩平野の東を限れる山地には夕張(ヨクザウ)内幾春(イクサキ)別等謂ゆる石狩炭山あり。内浦灣の口に開港場たる室蘭港(ムロワン)あり、石狩炭山より産する石炭の主なる輸出港なり。日高の海岸に近く平取(ヘイリク)新冠(ニイタカ)

あり、平取はアイヌ人の大部落なるを以て知られ、新冠は御料牧場を以て著はる。石狩川上流の旭川(アスカガハ)は第七師團司令部のある處なり。其の附近を上川地方(カミカハ)と稱し、北海道の中央に



函館附近の圖

東部地方

東部地方とは、蝦夷山脈以東の地を稱す。帯廣(オビヒロ)は十勝平野の中央市場なり。釧路の海岸も冬季港内氷結の患あり。北見(キタミ)はオホーツク海に面し、海岸

平直にして内にサロマ湖網走湖等の淺湖あり、又網走枝幸
維内の諸邑あり、枝幸は近來砂金產地として著はれたり。

千島列島

千島は千島火山脈に屬する火山質の列島にして、大小數多
の島嶼より成り、根室灣より斜に北東に互る。其の中、大なる
は國後、擇捉得撫、新知、恩禰、古丹、幌筵、占守等にして、占守は實
に其の最北端に在りて、ロシアのカムチツカ半島と纔に千
島海峽を隔つ、報公義會の諸氏こゝに移住せり。國後に泊擇
捉に紗那の港あり、列島中、硫黃、海獸等を産す。

第十章 樺太南部 (附圖第十七版)

樺太南部とは樺太島の北緯五十度以南をいひ、明治三十八
年日露平和條約の結果我が版圖に入りしものなり、日本海



樺太の山林

とオホーツク海との間
に横はりて、西は韃靼海
峽(間宮海峽)を隔ててロ
シアの沿海州に向ひ、南
は宗谷海峽を隔て、十
州島に對す。樺太山脈南
北に縦走し、南端は二派
に分れて、ノトロ岬(近藤
岬)及びアニワ岬(重藏岬)
と成り、其の間にアニワ
灣(東伏見灣)を抱く。樺太
山脈の北東にはポロナ
イ河の縦谷を隔てて東

を擁し、又島の南東にはススヤ山脈ありて、樺太山脈との間に、本島開拓の重要地たるススヤ川の平野を開く。海岸一般に單調にして良港なけれども、沿岸到る所好漁場にして、鯡、鮭、鱒等の漁利甚だ大なり。憾らくは冬季河海氷結して交通を杜絶し、不凍港としては唯西海岸のマウカ港あるのみ。氣候は地域高緯度に位し、寒氣劇烈且つ冬季長けれども、山地には椴松、蝦夷松、落葉松等の密林少からず、又ススヤ川の平野は農耕を起すに足る。而して殊に有望なるは樺太山脈中に發見せられたる多大の石炭なりとす。土人はアイヌを主として小數のロシア人、ギリヤク等あり。

コルサコフはもと九春古丹と呼び、嘗て本邦人の移住せるものありし所にして、アニワ灣頭に位し、樺太南部の主要地にして、夏季は近海に於ける漁業の中心地となり、海産物

の集散甚だ盛なり。此の地に樺太廳あり。

第四章 通論

第一節 地形 (附圖第二版及び第三版)

山誌 我が國は北東より南西に延びて連鎖狀を成せるが、山脈の方向も略之に沿うて延互し、全體に於て、三弧を畫けり。即ち臺灣琉球諸島及び薩南諸島は**南弧**を畫し、九州四國本州十州の四島及び樺太は**中弧**を畫し、千島列島は**北弧**を畫せり。されば中弧は、我が國の最も重要な部分を含める地方に當り、主として、崑崙樺太の二大山系より成れり。**崑崙山系**と稱するは支那崑崙山系の餘波にして、九州に起り、二派に分る、其の一派は九州にて南部山脈と成り、進みて四國に入り、更に本州に進み、紀伊赤石、木曾、飛驒等の諸山脈とな

る。他の一派は九州にて北部山脈と成り、本州に入りて、中國山脈を起し、尙進みて、濃飛高原と成り、本州の中央部に達す。樺太山系は、樺太より來るものにして、十州島の中央を南北に貫き、謂はゆる蝦夷山脈となり、南進して本州に入り、東海岸に沿ひて北上山地及び阿武隈山地となり、略其の西方の分水山脈と並行し、南西部より來れる崑崙系の諸山脈と會して本州中央部の高隆地をなす。此の高隆地の中央に富士山を初め、多くの火山南北に列坐し、其の脈延いて伊豆七島となり、終に硫黄列島に至る、之を富士火山脈と稱す。此の火山脈を境として、我が國の南部と北部とは、地形及び地質上大に異なるものあり、故に之より東北を北日本と稱へ、西南を南日本と稱す。

富士火山脈の外、中弧には猶火山甚だ多く、北日本には那須

火山脈あり、本州の東半に通して、淺間山・白根山・那須山・磐梯山・藏王山等の火山を起し、更に進んで十州の西部に及び駒ヶ嶽、マカリ嶽等を起せり。其の他、鳥海火山脈・寒風火山脈あり、相並びて其の西を走る、南日本には飛驒・信濃の國境に乘鞍火山脈あり。又、白山火山脈は加賀・越前の南境より、日本海岸に沿ひて、九州の北部に至り、白山・大山・三瓶山等を起せり。阿蘇火山脈は九州中部を横斷して瀬戸内海に至る。北弧をなせる、千島列島は、千島火山脈の噴起せる所にして、其の火山脈は、十州島に入り、跡佐登雄阿寒・雌阿寒等を起せり。南弧には、霧島火山脈を通ずるあり、九州南部より吐噶喇七島を経て、臺灣の北部に互り澎湖島に及ぶ。此の如く我が國は火山多きを以て、其の活動も少からず、近年にては磐梯山・吾妻山・沼尻山・鳥島等の破裂あり。従て、又温泉多く、伊香保熱

海有馬道後別府等は其の最も名あるものなり。

水誌 我が國は幅狭く、山脈中央に縦走するを以て、河流の長大なるもの稀なり。本州の北日本に屬する地方に於ては、那須火山脈と合走せる分水山脈を境界として、其の東部の諸川は太平洋に注ぎ、西部の諸川は日本海に注ぐ、利根川、北上川、阿武隈川等は前者の主なるものにして、信濃川、阿賀川、最上川は後者の主なるものなり。南日本に於ける本州の諸川は、飛驒山脈、中國山脈等を境として、太平洋、日本海及び瀬戸内海に注ぐ、其の主なるものを擧げんに、木曾川、天龍川、富士川等は太平洋に、淀川は瀬戸内海に、江川は日本海に入る。四國に於ては、分水界北に偏在するを以て、長流は重に南方に在り、皆太平洋に注ぐ、吉野川、渡川、其の主なるものなり。九州の諸川は九州南部山脈、北部山脈等を分水界とし、瀬戸内

海、太平洋、日本海、東支那海、東海等に注ぎ、臺灣にては分水界東岸に偏するが故に、河川は大抵西方、東支那海に入る、十州島の諸川は蝦夷山脈を分水界とし、東はオホーツク海及び太平洋に、西は日本海及び太平洋に注入す、十勝川、釧路川等は前者に屬し、石狩川、天鹽川等は後者に屬す。

河流中には、運輸、交通及び灌溉の利を與ふるもの少からず、又河畔には、大概地味肥沃の平野ありて、耕作に適す。平野の主なるものは、利根川の下流なる關東平野、木曾川の下流なる濃尾平野、信濃川の越後平野、淀川の大坂平野、石狩川の石狩平野等なり。

湖沼は其の數多く、種類も亦尠からざれども、大なるものは、甚だ稀なり。琵琶湖は周圍凡そ六十里にして、本州第一と稱せられ、霞浦之に次ぎて周圍凡そ三十六里なり、此の外宍道

湖濱名湖猪苗代湖八郎潟十和田湖洞爺湖サロマ湖等は稍大なるものなり。

海岸、我が國は島國なるを以て、港灣半島等の出入多く、海岸の延長實に七千五百里に達し面積に比して海岸線の長さこと世界中多く其の比を見ず。就中面積に比較して最も長きは九州にして、短きは臺灣なり。

第二節 氣候

溫度 我が國は概ね溫帯に位し、且四面海に圍まるるを以て、氣候大抵溫和にして、全國年中の平均溫度は攝氏の十二三度なり。されど、地形狹長にして、其の北端は寒帯に近く、南端は熱帯に入るが故に、兩地の氣候甚だ異なれり。臺灣は其の南端既に熱帯に入るを以て炎熱甚だしかるべきに、常に

十州島中央の
上川地方は最
低溫度零下三
十八度に及ぶ
之を我が國の
最寒地とす

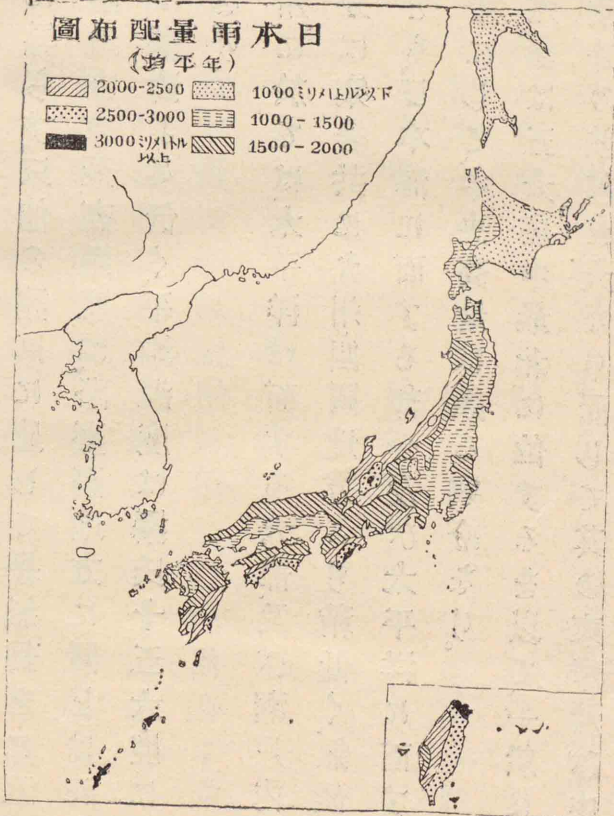
涼風あるを以て、其の最高溫度と雖も、攝氏の三十五六度以上昇らず、只他の諸島に比して暑氣長きに互るのみ。九州四國地方の最高溫度は、略臺灣地方に同じけれども、最低溫度は臺灣より低く、平均溫度は攝氏十五六度にして頗る溫和なり。

本州に於ては、太平洋に面する大部、及び瀬戸内海に面する部分は寒暑共に九州・四國地方より稍低く、氣候宜しきを得れども、日本海に面する部分及び太平洋に面する一部は、稍寒冷にして、中央高地は頗る寒冷なり。

十州島は五大島中最北に位するを以て、一般に寒冷にして、且寒暑の差甚だ大なり。而して其の東岸及び中央の高地は、寒氣殊に烈し、然れども之を同緯度のシベリア地方に比すれば、尙溫和なりとす。

雨量 我が國は四面海を繞らし、山脈、島の中央を走りて、海風を遮るが故に一般に降雨多く、中にも六月、九月は最も多

雨量の最も多きは、臺灣の北部、九州の南東部、四國の南部、紀



し、而して日本海に面する方面は、冬季に雨雪多く、太平洋に面する地方は、夏季に雨多し。全國中

伊半島及び飛驒山脈西側の地にして、少きは瀬戸内海地方、本州の中央部及び北東部、十州島の東部、樺太南部とす。

風 我が國の常風は、北西風及び南東風にして、北西風は冬季に多く、南東風は夏季に多し。然れども山脈の形勢等に依りて、各地方多少の差異あるを免れず。又三月及び九月頃即ち北西風・南東風の交代する際は、暴風の襲來あること常にして、特に二百十日前後の暴風は農家の恐るる所なり。此の風は概ねフ、リピン群島の近海に起り、北東に進行し、九州四國、本州を掠めて北海道に達す。

海流 我が國近海には、寒暖の二流ありて、其の暖流は赤道附近に起り、臺灣島の東を過ぎ、琉球諸島の中部にて二派となり、主派は謂はゆる黒潮と稱するものとなりて、九州の南東四國及び本州の南方を過ぎ、北折して本州東岸の一部を

對馬海流の影
響は日本海流
の影響よりも
更に一層大な
りとす

洗ひ、更に北東に轉じて、遠く北アメリカに向つて流れ去る、之を日本海流と稱す。又分派は對馬海流と稱し、九州の西岸を洗ひて、日本海に入り、更に十州島の北方を過ぎて、オホーツク海に入る、寒流はカムチャツカ半島の近海に起り、南流して千島及び十州島の南東岸より、三陸の東岸を洗ひて其の趾を絶つ、之を親潮と云ふ此の外に、オホーツク海の北部に起り樺太海流となりて樺太島の東を流れ、リマン海流となりて其の西を流れ、更に日本海を経て遠く東支那海に達するものあり。凡そ海流は其の通過する附近の地方の温度に著しく影響を及ぼすものなれば、是等の海流が我が國各地の温度に關係を有すること甚だ大なりとす。

第三節 天産物

我が國は殆ど寒溫熱の三帯に跨がれるを以て、面積の大ならざるに比して動植物の種類甚だ多し。

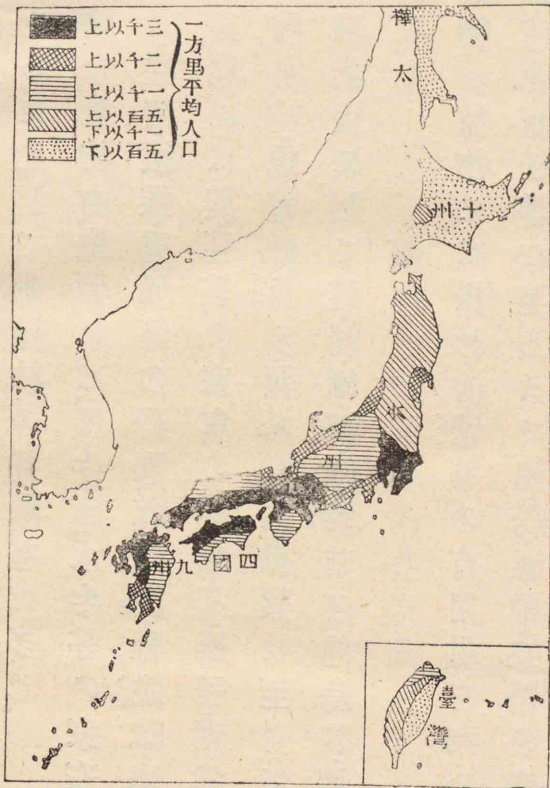
動物 動物中、獸類には、馬、牛、豚、水牛等の家畜を初めとして熊、豺、狼、猪、猿、猴、兔、狐等の野獸、鯨、臘、虎、膾、肭、獸、海豹等の海獸あり。鳥類には、鷄、鶩等の家禽の外、鷲、鷹、雉子、鳶、雀、烏等の野鳥あり。尚小蛇、龜、鼈、鮪魚の類あり。又魚類に至りては世界中有名な漁業地にして、鮭、鮪、鱈、鰹、鮪、鰯、其の他烏賊、鯛等の種類甚だ多し。

植物 植物には、松、杉、檜、樺等の有用材を初めとして、椰子、蘇鐵、芭蕉、偃松等に至るまで、熱帶、溫帶、寒帶の産共に多く、又稻、麥等の穀類、甘藷、煙草、甘蔗等の農作物多く生育す。

鑛物 鑛物には、金、銀、銅、鐵等の鑛石を初めとして、石炭、硫黃、アンチモニー、石油、陶土等其の種類甚だ多けれども、石炭、及

び銅鑛を除きては産出の量餘り多からず。

第四節 住民



あり。蒙古人種は大別して三種族と爲すを得べし、即ち天孫

種族 我が國の住民は主として蒙古人種より成り、其の他に小數のマライ人種及び樺太に住する異種族

全國平均人口は約一千九百人にして、世界の中心に於ては、ギリ、インド、ス、の次に位

種族アイヌ種族支那種族是なり。マライ人種は生蕃及び熟蕃の二族に分る。天孫種族は帝國中到處に住し、我が國民の大部を占め、アイヌ種族は北海道樺太に住し、支那種族生蕃熟蕃は共に臺灣に住す。是等の民族より成れる我が國民の總數は五千百餘萬にして人口の密度甚だ大なり。而して五大島中最も人口の密なるは九州にして、最も疎なるは十州島なり。

五大島	平均人口一万里
九州	二、五九〇
四國	二、五八〇
本州	二、五〇〇
臺灣	一、三八〇
十州	一、八〇〇

教育 維新以後、我が國教育の發達は非常に著しく、今や約二萬七千餘の小學校ありて、如何なる邊鄙の地と雖も、普通教育を授けざる處なし。又各府縣に師範學校、中學校

高等女學校其の他各種の學校を設け、小學校より、此等の中等學校に入り、尙進んで高等の學校に教育を受くるを得べし。今専門の學藝技術及び高等普通教育等を授くる主なる學校を擧ぐれば左の如し。

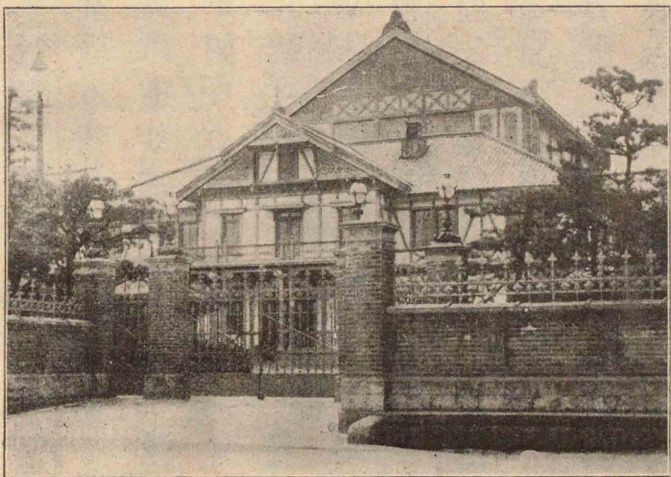
- 帝國大學 (東京、京都、東北) 高等學校 (東京、仙臺、金澤、京都、岡山、熊本、鹿児島)
- 醫學專門學校 (千葉、仙臺、岡) 高等工業學校 (東京、大阪、名古屋、仙臺)
- 高等商業學校 (東京、神戸) 高等工藝學校 (京都)
- 高等農林學校 (盛岡) 水産講習所 (東京)
- 美術學校 (東京) 外國語學校 (東京)
- 盲啞學校 (東京) 音樂學校 (東京)
- 高等師範學校 (東京、廣島) 女子高等師範學校 (東京)
- 學習院 (東京) 陸軍大學校 (東京)
- 陸軍士官學校 (東京) 海軍大學校 (東京)
- 海軍兵學校 (江田島) 海軍機關學校 (横須賀)

此の他、東京、京都には私立大學あり、又圖書館、博物館等ありて、教育の機關略備れり。

宗教 我が國に行はるる宗教は、神道、佛教、基督教の三教なり、**神道**は我が國固有の教法にして、十二派に分る、**佛教**は我が國にて最も盛なる宗教にして、十二宗四十餘派に分れ、之に屬する寺院の數七萬有餘あり、其の中眞宗最も盛にして、曹洞宗、眞言宗之に次ぐ。**基督教**は徳川時代に嚴禁せられ、信教の自由確立せし以來日尙淺きを以て、信徒未だ多からず、而して基督教にも新教、舊教、希臘教の三派ありて、之に屬する分派亦多し。

神社 我が國には一部族の祖先若しくは國家の恩人等を神として祀り、社殿を建てて之を尊崇する風あり。されば神社到る所にありて、其の數殆んど二十萬に達せり。社格を分

ちて官幣大社官幣中社官幣小社別格官幣社國幣中社國幣小社府社縣社等となす而して官國幣社の多くは京都府と奈良縣とに在り。



衆

第五節 政治

議

國體 我が國は君主國にして

院

て開闢以來二千五百有餘年の間萬世一系の天皇上に在りて之を統治し給へり斯かる國體は世界萬國其の比を見ざる所なり。

政體 我が國は明治二十二年帝國憲法を發布せられ次で

立憲政體の國となれり而して立法部は即ち帝國議會にして貴族院と衆議院とより成り法律豫算等を審議する所なり貴族院は皇族華族勅選議員及び多額納稅議員より成り衆議院は國民の選舉せる議員より成る政府又は議員より提出したる議案にして議會に於て可決せられたるものは天皇の裁可を経て公布執行せらるる行政部は内閣及び内務大藏陸軍海軍外務司法文部農商務遞信の九省とより成る各省には大臣あり各省の大臣は内閣を組織し内閣總理大臣之を總括す又大臣の下に次官局長等ありて各其所管の行政事務を處理す地方には地方廳あり府縣知事これが長として地方行政を司り市町村には自治制を布く此の外北海道樺太には長官臺灣には總督を置きて政務を統轄せしむ司法部には大審院控訴院地方裁判所區裁判所の四階

級ありて、共に刑事、民事の訟を聴き、理非曲直を判定して、以て國法を明かにす。又別に行政裁判所ありて、行政廳の處分に關する訴を處斷す。

以上の外、天皇の至高顧問に應ずる樞密院あり、帝國の財政を監督する會計検査院あり、又、宮内省は、専ら帝室の事を掌り、兼て華族を監督す。

兵制 我が國の兵制は、陸軍及び海軍に分れ、苟も帝國男子にして、不具癡疾にあらざるものは、滿十七歳以上四十歳まで、皆兵役に服する義務あるものとせり。兵役には常備、後備、補充、國民の四種類ありて、常備役は更に現役、豫備役に分ち、國民兵役は第一種、第二種に分つ。

陸軍の兵種は、歩、騎、砲、工、輜重、交通等にして、別に憲兵あり、而して全國を十八師管に分ちて、十八師團を配し、外に近衛師

團を置く。而して此等十九師團の師團司令部等の所在地は左の如し。

陸軍常備團隊配備表

師團	師團司令部所在地	諸隊衛戍地名
近衛第一師團	東京	東京、習志野、千葉
第一師團	東京	東京、甲府、佐倉、習志野、國府臺、下志津、横須賀
第二師團	仙臺	仙臺、若松、山形
第三師團	名古屋	名古屋、岐阜、津
第四師團	大阪	大阪、篠山、和歌山、高槻、由良、深山、福良
第五師團	廣島	廣島、松山、山口、忠海
第六師團	熊本	熊本、鹿兒島、都城
第七師團	旭川	札幌、旭川、函館
第八師團	弘前	青森、弘前、秋田、盛岡
第九師團	金澤	金澤、鯖江、富山
第十師團	姫路	姫路、鳥取、福知山、舞鶴
第十一師團	善通寺	丸龜、德島、善通寺、高知
第十二師團	小倉	小倉、大分、福岡、下關、鷄知、嚴原
第十三師團	高田	新發田、村松、松本、高田、小千谷

韓國及び滿洲
には別に守備
軍を駐在せし
む

租借地旅順口
には別に鎮守
府を設く

第 十 八	第 十 七	第 十 六	第 十 五	第 十 四
久	岡	京	豐	宇
留	米	山	橋	都
大村、佐賀、久留米、佐世保、長崎	福山、岡山、濱田、松江	都	豐橋、静岡、濱松	水戸、宇都宮、高崎

右の外、島地に警備隊を置き、要害の地に要塞砲兵を置き、臺灣には混成二箇旅團を置けり。又東京に參謀本部を置きて國防及び用兵の事を司らしむ。

海軍は全國の海岸海面を四區に分ち、横須賀、吳、佐世保、舞鶴の四軍港に鎮守府を置き、所屬の艦隊ありて管内を警戒す。又海軍軍令部を置きて、國防及び用兵に關する事を掌らしむ。而して我が國の軍艦は、戰鬪艦、巡洋艦、海防艦、驅逐艦、砲艦等を合せて百二十隻以上に及び、其の排水量は四十五萬噸以上に達し、水雷艇凡そ八十隻あり。

第六節 生業

農業 我が國は古來農を以て國本となしたれば、今に至りても農夫は國民の最多數を占め、農業に従事せり。農産物中、最も多額なるは米にして、其收穫は年々異なりと雖も平均四千萬石に達し、新潟縣最も多く、兵庫、愛知、福岡之に亞ぐ、然れども、其の質の良きは熊本、滋賀、岐阜の諸縣とす。

麥の收穫は平均凡そ二千萬石にして、埼玉縣、茨城縣最も多く、熊本、愛知、兵庫の諸縣之に次ぐ。養蠶業は全國を通して從事せざる處なければ、其の中最も多く産するは長野縣にして、群馬、埼玉、福島、諸縣之に亞ぐ、砂糖の製造は香川、鹿児島二縣最も多く、臺灣亦著名なる産地なり。製茶は全國にて約七百貫に達し、静岡縣最も多く、京都、三重之に次ぎ、臺灣亦産地として名あり。牧畜業は奥羽、中國、九州等に盛にして、馬

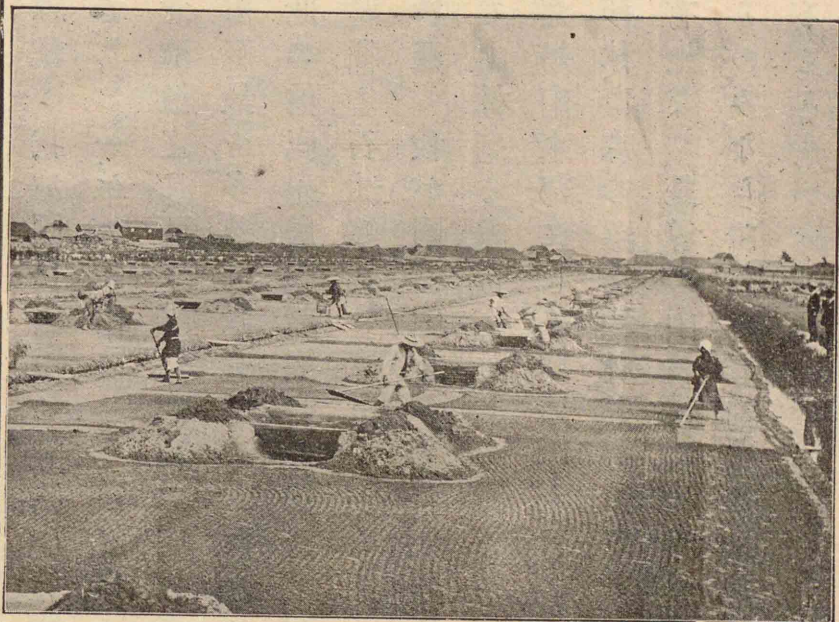
は奥羽地方に多く、牛は中國地方に多し。九州は牛馬共に多く、就中鹿兒島を第一とす。臺灣に於ては牛馬よりも水牛を多く飼養す。葉煙草も亦産出多く、栃木縣を第一とし、茨城・鹿兒島之に亞ぐ。此の他葉藍・甘藷等の産額多く、葉藍は徳島縣、甘藷は鹿兒島を第一とす

米收穫高(平年)

全 國	四〇、二五〇、〇〇〇 ^石	富山縣	一、三〇二、〇〇〇 ^石
新潟縣	二、二三五、〇〇〇	山形縣	一、二四八、〇〇〇
兵庫縣	一、七五六、〇〇〇	山口縣	一、二四五、〇〇〇
福岡縣	一、六九〇、〇〇〇	福島縣	一、二三〇、〇〇〇
愛知縣	一、六一七、〇〇〇	熊本縣	一、二〇二、〇〇〇
千葉縣	一、四二五、〇〇〇		

鑛業 我が國に出づる鑛物中、産額の最も多きは石炭にして、其の一年の産出高一千萬噸以上に達し、福岡縣最も多く、北海道之に亞ぐ。銅は亦我が國鑛産の主なるものにして、秋田縣最も多く、栃木・愛媛の二縣之に次ぐ。鐵は岩手縣に多し。此の他鹿兒島縣・新潟縣・北海道及び臺灣の金、秋田縣の銀、新潟縣の石油等其の産出少からず。

林産 我が國は山岳多く、且氣候樹木の生育に適するを以て山林到る處に在り。其の重なるは本州中部・奥羽・畿内附近九州南東部に於て、其の中木曾の檜林、吉野及び秋田北境の杉林、青森の羅漢柏林等最も著名なり。臺灣の林産も亦甚だ有望なり。是等の山林は杉・松・檜・榿等の有用なる木材を供するのみならず、種々の副産物を生じ、直接・間接に利益を與ふること少からず。現今の林制は北海道・臺灣を除き、全國を十



田 鹽

大林區に分ち、國有林の保護經營を掌らしむ。
水産業 我が國は地形上水産の利の大なるは言を待たず、其の種類に於ても分量に於ても、世界中匹敵するもの少し、而して從來の漁法は規模小にして、十分の利益を収むること能はざりしが、近來組合を設けて

大に之を奨勵するに至れり。水産業の最も盛にして其の産額の多きは北海道にして、千葉縣之に亞ぐ。又製鹽は瀬戸内海沿岸最も盛にして、其の價格殆ど九百萬圓に上る。

工業 從來我が國の工業は、比較的幼稚にして、唯美術的工藝品のみ稍見るべきものありしが、近來各種の起業に伴ひて工業も勃興し、年々隆盛に赴けり。工業品中の主要なるものは、蠶絲・綿絲・各種の織物・製紙・陶器・漆器・酒類等にして、蠶絲即ち生絲は養蠶の盛なる地方より多く産し、輸出品の第一位を占む。綿絲は原料をアメリカ合衆國インド及び支那より輸入し、大阪府・兵庫縣・東京府等の紡績業の盛なる地方にて製し、盛に海外に輸出す。絹織物は京都府・福井縣・群馬縣最も盛なり。此の外製紙は高知縣、陶器は愛知縣を第一とし、又漆器は和歌山縣、酒類は兵庫縣より多く産す。

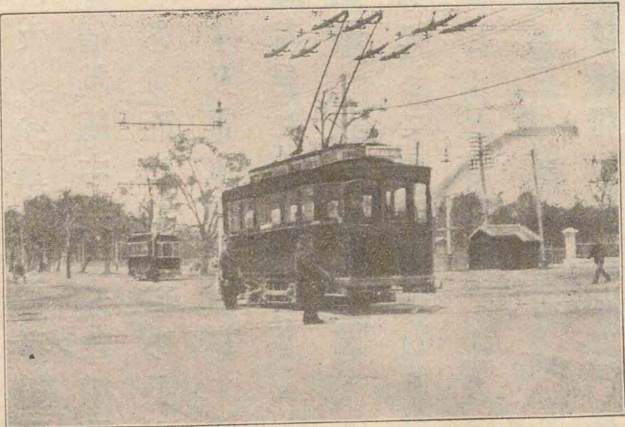
開港場中最も盛なるは神戸横濱の二港にして輸入は横濱を第一とす

商業 我が國にては、古來商人を輕視し來りしが故に、商業も従つて振はざりしが、外國と交通を開きてより、内外の商業一時に興り、今や各種の商業機關も略整ひ、其の發達頗る著しきものあり。而して内國商業は東京及び大阪を二大中心とし、各地の都會に行はれ、外國貿易は三十餘の開港場に行はれ、輸出入額十億圓を超ゆるに至れり。而して外國輸出品中の重なるものは、生絲、綿絲、絹織物、石炭、銅製茶等にして、燐枝米、陶磁器、漆器、美術品等之に次ぐ。又輸入品の重なるものは、纈綿にして、砂糖、鐵、鋼、鐵米、石油之に亞ぐ、その他金巾、麥粉、大豆等種類甚だ多し。

第七節 交通

(附圖第五版)

道路 道路には國道、縣道、里道等の別ありて、其の國道とは、



東京市電の中

伊勢神宮、各府縣廳、各師團司令部間に通ずるもの等を云ひ、縣道とは各府縣の市邑間及び各師團司令部と分營との間に通ずる道を云ひ、里道とは、邑里間の道を云ふ。維新後各地に新道開通せられ、今や我が國の道路は、之を昔日に比すれば、大に整頓したりと雖も、北海道、臺灣等の内地に至りては、交通不便なる處尙少からず。

鐵道 明治の初年、我が國初めて京濱間の鐵道を敷設せし以來、茲に三十年、其の間鐵道は次第に延長し、今や總計五千哩以上マイルに達せり。是等の鐵道中

日本郵船會社
 は内地、主要港
 間の外、歐洲
 線、米、北、東
 海、濠洲、北、東
 線、濠洲、北、東
 航、海、船、會、社、は、東
 洋、汽、船、會、社、は、東
 横、濱、米、國、間、を、
 横、濱、香、港、間、を、
 大、阪、西、船、地、大
 阪、以、西、内、地、大
 港、間、及、び、楊、子
 江、沿、岸、北、清、航
 韓、國、へ、の、航、路
 に、營、業、す

從來私設に係るもの少からざりしが、近時政府にて漸次私設鐵道の重なるものを買収し、官業となすの計畫確定せられたり。今重なる鐵道線路を擧ぐれば、東海道線、奥羽線、常磐線、信越線、中央線、北陸線、關西線、山陽線、九州線、炭鑛線、臺灣線等あり。而して鐵道の最も集中せるを東京附近と京阪地方とす。又電車鐵道は目下東京、京都、大阪、名古屋を始め、其他數都邑に布設せらるゝを見る。

航路 我が國は島國なるを以て、海運の盛大なるは自然の勢にして、内海沿海は勿論、遠く外國にも汽船常に往來せり。而して是等海運の主なる機關は、日本郵船、東洋汽船、大阪商船の三株式會社なり。

郵便電信 郵便制度の始めて我が國に布かれしは、明治四年にして、同十年萬國郵便聯合に加入せしが、今は如何なる

僻地にも郵便の達せざる處なきに至り、郵便局數凡そ六千の多きに及べり。電信は明治二年以來長足の進歩を爲し、今は鐵道線路の及ぶ處は勿論、遍く全國緊要の市邑に架設せられ、其の取扱所七百に近し。又海底電信線は全國內の諸島を連絡するの外、支那、朝鮮及びシベリア、アメリカにも通ぜり。電話は明治十八年以來、東京、大阪等を初めとして、著名の都邑及び都邑間に架設せらるゝに至れり。

正訂 地理教科書 日本終

日二十二月二年一十四治明
濟定檢省部文
 書科教科理地校學中

行發版初日六十二月二十年六十三治明
 行發版再正訂日四十月三年七十三治明
 行發版三正訂日三十二月二十年九十三治明
 行發版四正訂日二月三年十四治明
 行發版五正訂日九十二月一十年十四治明
 刷印正訂日一月二年一十四治明
 行發版六日五月二年一十四治明

訂正地理教科書
 定價金六拾錢
 日本



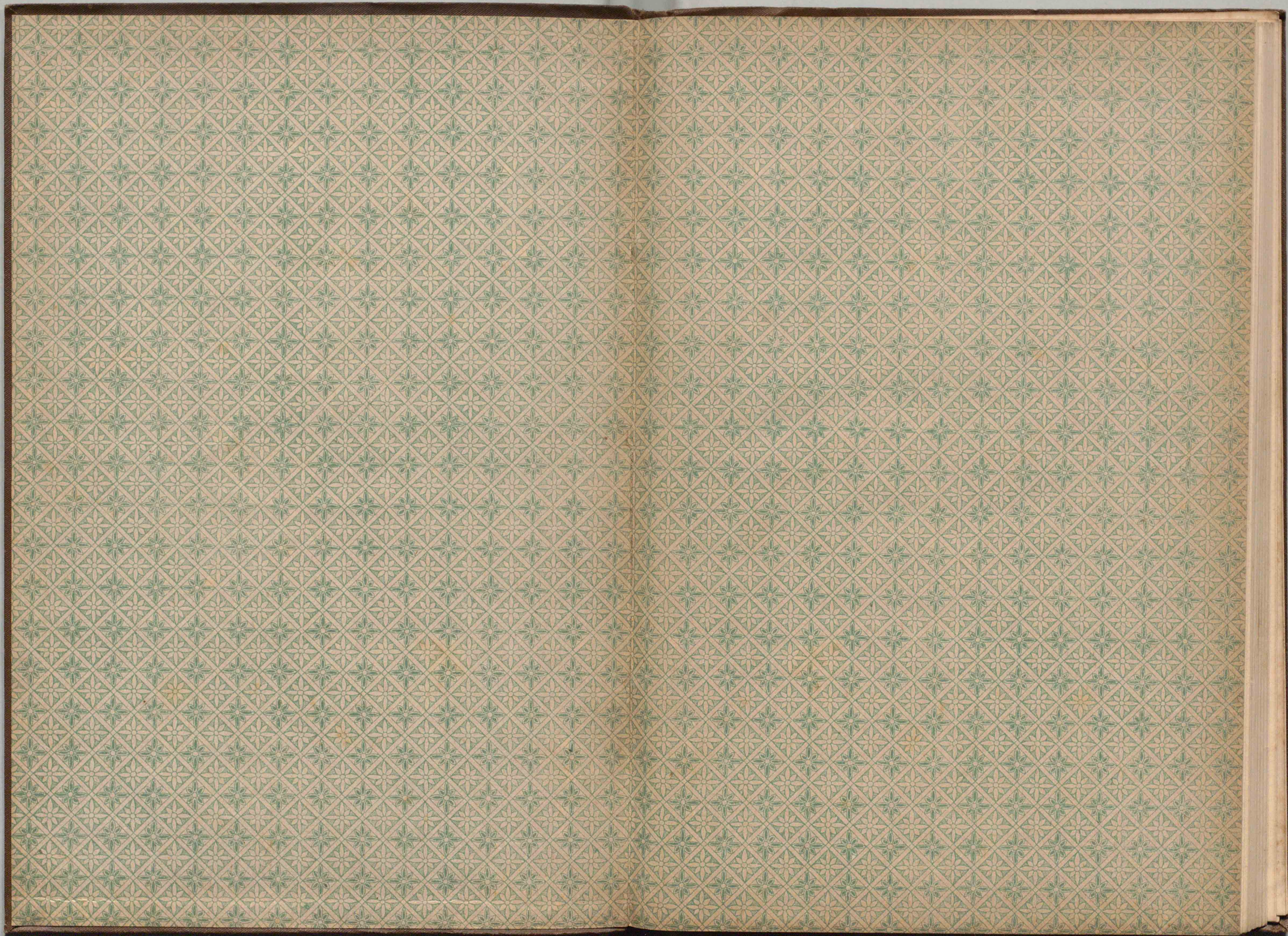
發賣所
 東京
 金港堂書籍株式會社

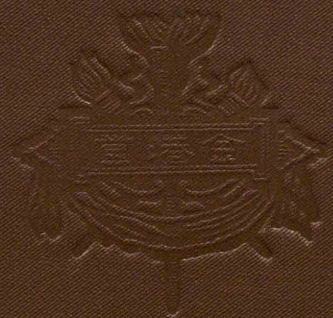
著作者
 脇水鐵五郎

印發者兼
 東京市日本橋區本町三丁目十七番地
 金港堂書籍株式會社

社代表長者
 東京市下谷區龍泉寺町四百十四番地
 原亮一郎

印刷所
 東京市芝區愛宕町三丁目二番地
 東洋印刷株式會社





広島大学図書

2000085558

